

【表紙】

| | |
|--|-----------------------------------|
| 【提出書類】 | 有価証券届出書 |
| 【提出先】 | 関東財務局長殿 |
| 【提出日】 | 平成23年3月15日提出 |
| 【発行者名】 | B N Yメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社 |
| 【代表者の役職氏名】 | 代表取締役社長 山口 省吾 |
| 【本店の所在の場所】 | 東京都千代田区丸の内二丁目1番1号 明治生命館6階 |
| 【事務連絡者氏名】 | 石井 泉 |
| 【電話番号】 | 03（5288）6467 |
| 【届出の対象とした募集（売出）内国投資 信託受益証券に係るファンドの名称】 | B N Yメロン・ブラジル・インフラ・消費関連株式ファン ド |
| 【届出の対象とした募集（売出）内国投資 信託受益証券の金額】 | 5,000億円を上限とします。 |
| 【縦覧に供する場所】 | 該当事項はありません。 |

第一部【証券情報】

(1) 【ファンドの名称】

B N Yメロン・ブラジル・インフラ・消費関連株式ファンド

（以下「当ファンド」ということがあります。また、愛称として「ブラジルの奇跡」という名称を用いることがあります。）

(2) 【内国投資信託受益証券の形態等】

契約型の追加型証券投資信託の受益権（以下「受益権」といいます。）です。

B N Yメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社（以下「委託会社」といいます。）の依頼により、信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供された信用格付、または信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供される予定の信用格付はありません。

当ファンドの受益権は、社債、株式等の振替に関する法律（以下「社振法」といいます。）の規定の適用を受け、受益権の帰属は、下記の「（11）振替機関に関する事項」に記載の振替機関および当該振替機関の下位の口座管理機関（社振法第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。）の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります（以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。）。委託会社は、やむを得ない事情がある場合等を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。また、振替受益権に無記名式や記名式の形態はありません。

(3) 【発行（売出）価額の総額】

5,000億円^{*}を上限とします。

^{*} 受益権1口当たりの発行価格に発行口数を乗じて得た金額の合計額です。

(4) 【発行（売出）価格】

取得申込日の翌営業日の基準価額とします。

なお、午後3時を過ぎて取得申込みを受付けたものは、翌営業日の取扱いとなります。

基準価額とは、信託財産の純資産総額を計算日における受益権総口数で除した1口当たりの純資産価額（ただし、便宜上1万口当たりに換算した価額で表示されることがあります。）をいいます。基準価額は組入有価証券等の値動き等により日々変動します。

基準価額（1万口当たり）は、毎営業日に算出され、販売会社（下記「（8）申込取扱場所」をご参照ください。）または下記「（8）申込取扱場所」の照会先に問い合わせることにより知ることができるほか、翌日の日本経済新聞朝刊の証券欄「オープン基準価格」の紙面に「ブラ奇跡」として掲載されます。また、委託会社のホームページでご覧になることもできます。

(5) 【申込手数料】

3.15%（税抜 3.0%）を上限として販売会社（下記「（8）申込取扱場所」をご参照ください。）が定める申込手数料率^{*}を、取得申込日の翌営業日の基準価額に乗じて得た額が申込手数料となります。ただし、税引後の収益分配金を再投資する場合の受益権の価額は、原則として毎計算期間終了日の基準価額とし、申込手数料は無手数料となります。申込手数料は、お申込時にご負担いただきます。

詳しくは販売会社または下記「（8）申込取扱場所」の照会先までお問い合わせください。

^{*} 当該申込手数料は、消費税および地方消費税（以下「消費税等」または「税」ということがあります。）に相当する金額を含みます。

取得申込みには、収益分配金の受取方法により、収益の分配時に収益分配金を受取るコース（以下「一般コース」といいます。販売会社により名称が異なる場合があります。以下同じ。）と、収益分配金が税引き後無手数料で再投資されるコース（以下「自動継続投資コース」といいます。販売会社により名称が異なる場合があります。以下同じ。）の2つのコースがあります。

取扱コースおよび申込手数料は、販売会社によって異なります。詳しくは、販売会社までお問い合わせください。

(6) 【申込単位】

販売会社が定める単位とします。

自動継続投資契約に基づいて収益分配金を再投資する場合は、1口の整数倍をもって取得のお申込みに応じます。

取扱コースおよび申込単位は、販売会社によって異なります。販売会社の取扱コースおよび申込単位については、販売会社までお問い合わせください。

(7) 【申込期間】

平成23年3月16日から平成24年3月15日まで

申込期間は、上記申込期間終了前に有価証券届出書を提出することにより更新されます。

(8) 【申込取扱場所】

販売会社において、申込みの取扱いを行います。

販売会社は、下記にてご確認ください。

（委託会社の照会先）

BNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社

電話番号（代表）03-5288-6431（営業日の午前9時から午後5時まで）

ホームページ <http://www.bnymellonam.jp/>

なお、販売会社以外の金融機関もしくは第一種金融商品取引業者等が販売会社と取次契約を結ぶことにより、当ファンドを当該販売会社に取次ぐ場合があります。

(9) 【払込期日】

取得申込者は、申込みの販売会社が定める日までに取得申込にかかる金額を販売会社に支払うものとします。申込期間における取得申込日の発行価額の総額は、追加信託が行われる日に、委託会社の指定する口座を經由して、住友信託銀行株式会社（以下「受託会社」といいます。）の再信託受託会社（日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社）のファンド口座に払い込まれます。

(10) 【払込取扱場所】

払込取扱場所は、販売会社（上記「(8) 申込取扱場所」をご参照ください。）となります。

(11) 【振替機関に関する事項】

当ファンドの受益権の振替機関は、株式会社証券保管振替機構です。

(12) 【その他】

申込証拠金

ありません。

本邦以外の地域における発行

ありません。

振替受益権について

当ファンドの受益権は、社振法の規定の適用を受け、上記「(11) 振替機関に関する事項」に記載の振替機関の振替業にかかる業務規程等の規則に従って取扱われるものとします。

当ファンドの収益分配金、償還金、換金代金は、社振法および上記「(11) 振替機関に関する事項」に記載の振替機関の業務規程その他の規則に従って支払われます。

（参考）投資信託振替制度とは、

ファンドの受益権の発生、消滅、移転をコンピュータシステムにて管理します。

- ・ファンドの設定、解約、償還等がコンピュータシステム上の帳簿（「振替口座簿」といいます。）への記載・記録によって行われ受益証券は発行されませんので、盗難や紛失のリスクが削減されます。
- ・ファンドの設定、解約等における決済リスクが削減されます。
- ・振替口座簿に記録されますので、受益権の所在が明確になります。

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

(1)【ファンドの目的及び基本的性格】

ファンドの目的

当ファンド「B N Yメロン・ブラジル・インフラ・消費関連株式ファンド」は、主としてブラジル企業の株式に投資することにより、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標として運用を行います。

ファンドの基本的性格

当ファンドの商品分類および属性区分は、下記の表のとおりです。

(注) 社団法人投資信託協会が定める商品分類および属性区分の詳細については、同協会ホームページをご覧ください。

<http://www.toushin.or.jp/>

商品分類表

| 単位型投信・追加型投信 | 投資対象地域 | 投資対象資産 (収益の源泉) |
|-------------|--------|-------------------|
| 単位型投信 | 国内 | 株式 |
| | 海外 | 債券 不動産投信 |
| 追加型投信 | 内外 | その他資産 () |
| | | 資産複合 |

* 追加型投信：

一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいいます。

* 海外：

目論見書または投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

* 株式：

目論見書または投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

(注) 当ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

属性区分表

| 投資対象資産 | 決算頻度 | 投資対象地域 | 為替ヘッジ |
|---|--------------|-------------|-----------|
| 株式一般 | 年1回 | グローバル | |
| 大型株 中小型株 | 年2回 | 日本 | |
| 債券 | 年4回 | 北米 | あり () |
| 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性 () | 年6回 (隔月) | 欧州 | |
| | 年12回 (毎月) | アジア | |
| | 日々 | 中南米 | なし |
| 不動産投信 | その他 () | アフリカ | |
| その他資産 () | | 中近東 (中東) | |
| 資産複合 () | | エマージング | |
| 資産配分固定型 資産配分変動型 | | | |

* 株式（一般）：

目論見書または投資信託約款において、主として株式に投資する旨の記載があるものをいいます。

* 年2回：

目論見書または投資信託約款において、年2回決算する旨の記載があるものをいいます。

* 中南米：

目論見書または投資信託約款において、組入資産による投資収益が中南米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

* 為替ヘッジなし：

目論見書または投資信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるものまたは為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいいます。

(注) 当ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

信託金限度額

委託会社は、受託会社と合意のうえ、3,000億円を上限として信託金を追加することができます。委託会社は、受託会社と合意のうえ、この限度額を変更することができます。

ファンドの特色

- a. 当ファンドは、主として、ブラジル株式に投資を行い信託財産の中長期的な成長を図ることを目標とします。

ブラジルについて

ラテンアメリカで1番の経済大国

- ◆良好な経済ファンダメンタルズ
- ◆安価で豊富な労働力
- ◆豊富な天然資源
- ◆安定的な政治

により、近年目覚ましい経済成長を遂げ、経済的にも政治的にも存在感が高まっています。

2016年のオリンピック開催などにより更なる経済成長が期待されています。

基本情報



国名:ブラジル連邦共和国

面積: 851.2万km²(世界5位、日本の22.5倍)

人口: 1億9,148万人(世界5位、2009年国連統計)

首都:ブラジリア

通貨:ブラジルレアル(以下「レアル」とします)
(2010年12月末現在、1レアル=48.55円)

主要言語:ポルトガル語

出所: 日本貿易振興機構(JETRO)、国際通貨基金(IMF)等のデータを基にBNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が作成

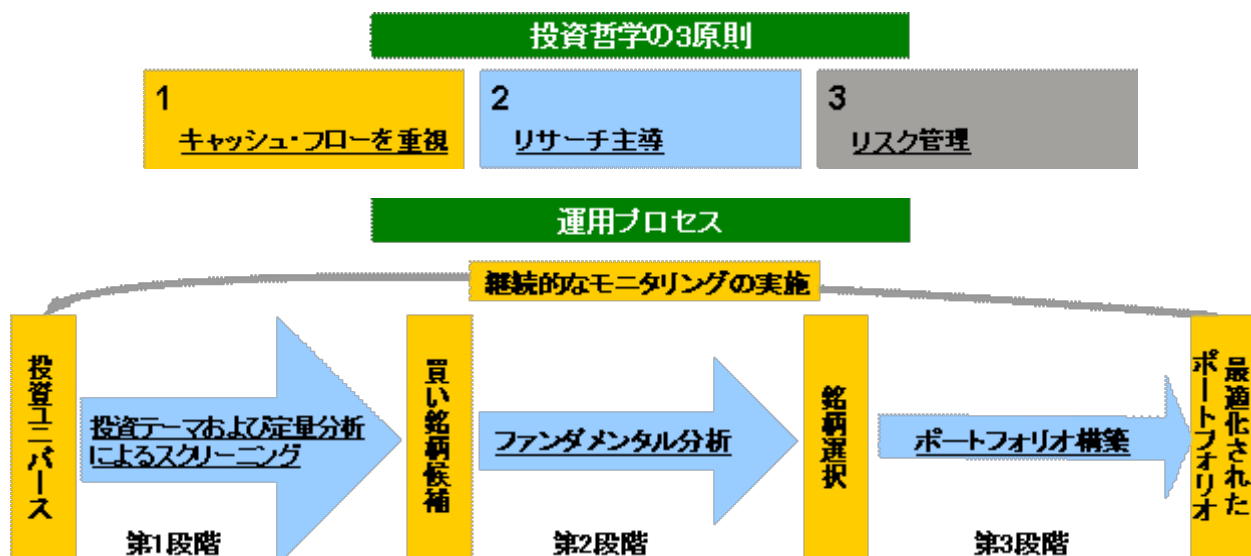


b. 主として、ブラジルのインフラ・消費に関連する企業の株式の中から銘柄を厳選してポートフォリオを構築します。

c. 当ファンドの運用の指図に関する権限は、BNYメロン・グループ*傘下の運用会社であるBNYメロンARXインベストメントスLTDA(以下、BNYメロンARXといいます。)に委託します。

* BNYメロン・グループとは、ザ・バンク・オブ・ニューヨーク・メロン・コーポレーションを最終親会社とするグループの総称です。以下同じ。

BNYメロンARXインベストメントスLTDAの投資哲学と運用プロセス





BNYメロンARXインベスティメントスLTDA

リオデジャネイロに拠点を置くブラジル市場のスペシャリスト

世界有数の運用会社グループであるBNYメロン・アセット・マネジメント・インターナショナル・リミテッドの一員として1998年に設立

2008年1月にARXキャピタル・マネジメントを吸収合併し、現BNYメロンARXへ現地市場に精通したメンバーがブラジル資産運用に特化した運用サービスを提供

株式、債券、マルチストラテジーからヘッジファンドまで幅広い運用戦略（ブラジル株式の運用は1999年から）

2010年12月末現在の運用資産残高は約71億米ドル（約5,786億円）

出所：BNYメロンARX、2010年（平成22年）12月末現在、1米ドル=81.49円で換算

ザ・バンク・オブ・ニューヨーク・メロン・コーポレーション

ザ・バンク・オブ・ニューヨーク・メロン・コーポレーションは、2007年7月1日に旧メロン・フィナンシャル・コーポレーションと旧バンク・オブ・ニューヨーク・カンパニー・インクが合併してできた世界最大級の総合金融会社で、資産運用、アセット・サービスにおいてそれぞれ高い評価を得ています。また1980年代以来、BNYメロン・グループの資産運用部門は運用会社の設立および買収を通じて成長を続け、伝統的なパッシブ・マネジャーからヘッジファンドまでそれぞれ専門性を持った複数の運用会社を傘下に有しています。

格付け：スタンダード&プアーズ社 AA-、ムーディーズ社 Aa2

総運用資産：約1.17兆米ドル（約95兆円）（注）

総管理資産：約25兆米ドル（約2,037兆円）（注）

（注）2010年（平成22年）12月末現在、1米ドル=81.49円で換算。

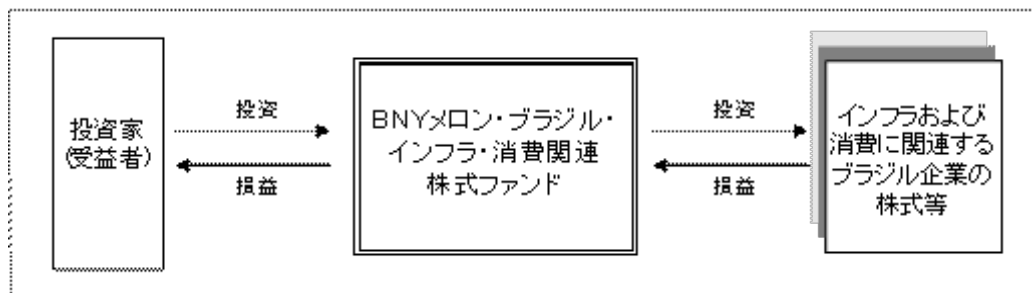
d. 外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジは行いません。

(2) 【ファンドの沿革】

平成22年1月12日 ファンドの信託契約締結、運用開始

(3) 【ファンドの仕組み】

ファンドの仕組み



ファンドの関係法人

当ファンドの関係法人とその名称、関係業務および運営の仕組みは、次のとおりです。

a. BNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社（「委託会社」）

当ファンドの委託会社として、当ファンドの受益権の発行、信託財産の運用指図、目論見書および運用報告書の作成等を行います。

b. BNYメロンARXインベスティメントスLTDA（「投資顧問会社」）

委託会社から運用の委託を受けて、当ファンドにおける運用の指図を行います。

c. 販売会社

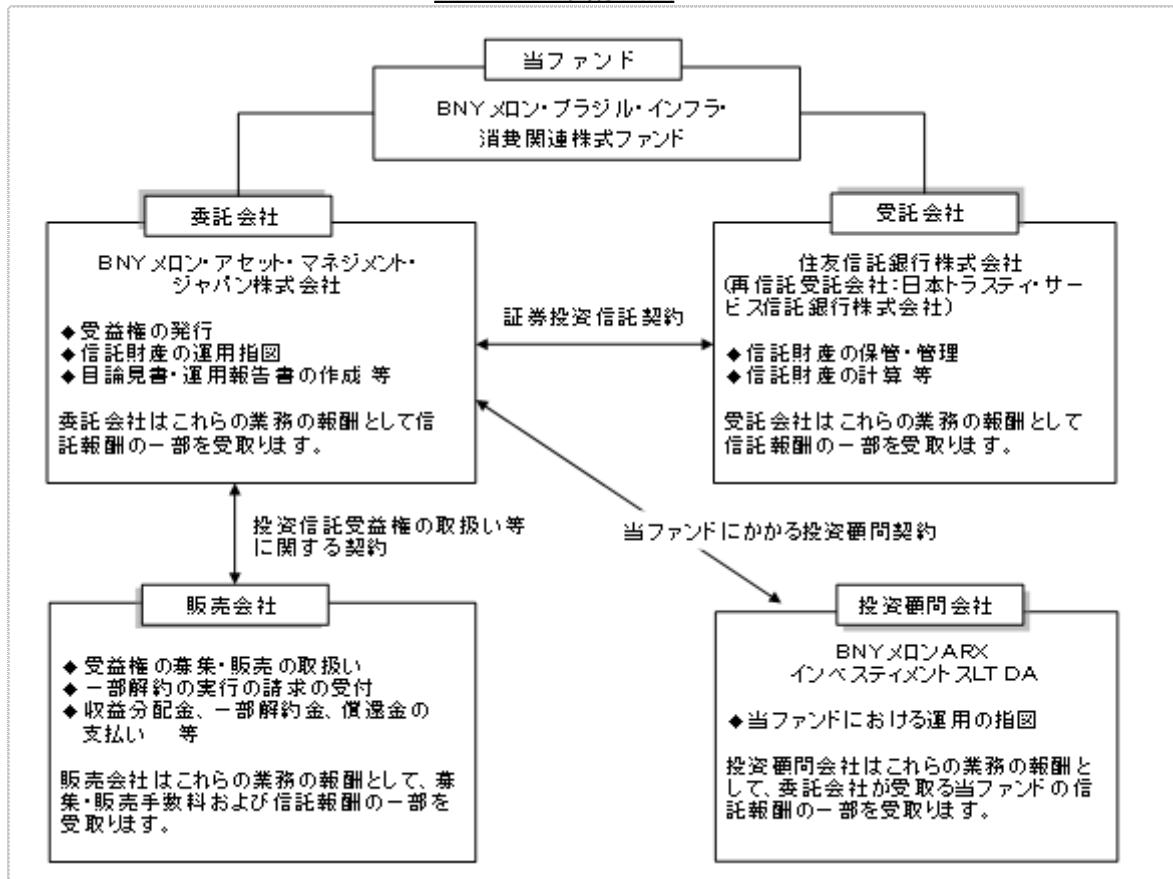
当ファンドの販売会社として、当ファンドの受益権の募集・販売の取扱い、収益分配金の再投資、一部解約の実行の請求の受付、収益分配金、一部解約金および償還金の支払い等を行います。

d. 住友信託銀行株式会社（「受託会社」）

（再信託受託会社：日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社）

当ファンドの受託会社として、当ファンドの信託財産の保管・管理、信託財産に関する計算等を行います。

ファンドの関係法人



委託会社の概況

a. 名称

BNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社

b. 本店の所在の場所

東京都千代田区丸の内二丁目1番1号 明治生命館6階

c. 資本金の額（平成23年2月末現在）

7億9,500万円

d. 委託会社の沿革

平成10年11月6日 ドレイファス・メロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社設立

平成10年11月30日 投資顧問業者の登録 関東財務局長 第828号

平成11年12月9日 投資一任契約にかかる業務の認可取得 金融再生委員会第21号

平成12年1月1日 会社名をメロン・アセットマネジメント・ジャパン株式会社に変更

平成12年5月18日 証券投資信託委託業の認可取得 金融再生委員会第28号

平成13年10月1日 会社名をメロン・グローバル・インベストメント・ジャパン株式会社に変更

平成19年9月30日 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第406号

平成19年11月1日 会社名をBNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社に変更

e. 大株主の状況（平成23年2月末現在）

| 株主名 | 住所 | 所有株式数 | 所有比率 |
|---|--|---------|------|
| BNYメロン・アセット・マネジメント・インターナショナル・ホールディングス・リミテッド | 英国 EC4V 4LA ロンドン、クィーンビクトリアストリート 160、ザ・バンク・オブ・ニューヨーク・メロン・センター | 15,900株 | 100% |

2【投資方針】

(1)【投資方針】

投資方針

当ファンドは、主としてブラジル企業の株式に投資することにより、投資信託財産の中長期的な成長を図ることを目標として運用を行います。

運用方法

a. 投資対象

ブラジル企業の株式（DR（預託証券）を含みます。）を主要投資対象とします。

b. 投資態度

1. ブラジル企業の株式に投資するにあたっては、インフラおよび消費に関連する企業を主な投資対象とします。
2. B N YメロンARXインベスティメントSLTDAに、運用の指図に関する権限を委託します。
3. 外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。
4. 株式の組入比率は、原則として高位を保ちます。
5. 市況動向、資金動向その他の要因等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

(2)【投資対象】

投資対象とする資産の種類

当ファンドにおいて投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

1. 次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。）
 - イ. 有価証券
 - ロ. デリバティブ取引にかかる権利（金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、信託約款に規定するものに限りません。）
 - ハ. 約束手形
 - ニ. 金銭債権
2. 次に掲げる特定資産以外の資産
 - イ. 為替手形

投資対象とする有価証券

委託会社（委託会社から運用の指図に関する権限の委託を受けた者を含みます。）は、信託金を、主として次の有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図します。

1. 株券または新株引受権証券
2. 国債証券
3. 地方債証券
4. 特別の法律により法人の発行する債券
5. 社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券（以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。）の新株引受権証券を除きます。新株予約権付社債については、会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの（会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含め、以下総称して「転換社債型新株予約権付社債」といいます。）に限りません。）
6. 資産の流動化に関する法律に規定する特定社債券（金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。）
7. 特別の法律により設立された法人の発行する出資証券（金融商品取引法第2条第1項第6号で定めるものをいいます。）
8. 協同組織金融機関にかかる優先出資証券（金融商品取引法第2条第1項第7号で定めるものをいいます。）
9. 資産の流動化に関する法律に規定する優先出資証券または新優先出資引受権を表示する証券（金融商品取引法第2条第1項第8号で定めるものをいいます。）
10. コマーシャル・ペーパー
11. 新株引受権証券（分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。以下同じ。）および新株予約権証券
12. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、上記1. から11. までの証券または証書の性質を有するもの
13. 投資信託または外国投資信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。）
14. 投資証券もしくは投資法人債券または外国投資証券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。）

15. 外国貸付債権信託受益証券（金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。）
 16. オプションを表示する証券または証書（金融商品取引法第2条第1項第19号で定めるものをいい、有価証券にかかるものに限ります。）
 17. 預託証書（金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。）
 18. 外国法人が発行する譲渡性預金証書
 19. 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）
 20. 抵当証券（金融商品取引法第2条第1項第16号で定めるものをいいます。）
 21. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの
 22. 外国の者に対する権利で上記21.の有価証券の性質を有するもの
- なお、1.の証券または証書、12.ならびに17.の証券または証書のうち1.の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、2.から6.までの証券および12.ならびに17.の証券または証書のうち2.から6.までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といい、13.および14.の証券（投資法人債券を除きます。）を以下「投資信託証券」といいます。

投資対象とする金融商品

委託会社は、信託金を、上記 に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することを指図することができます。

1. 預金
2. 指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）
3. コール・ローン
4. 手形割引市場において売買される手形
5. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
6. 外国の者に対する権利で上記5.の権利の性質を有するもの

金融商品による例外的な運用指図

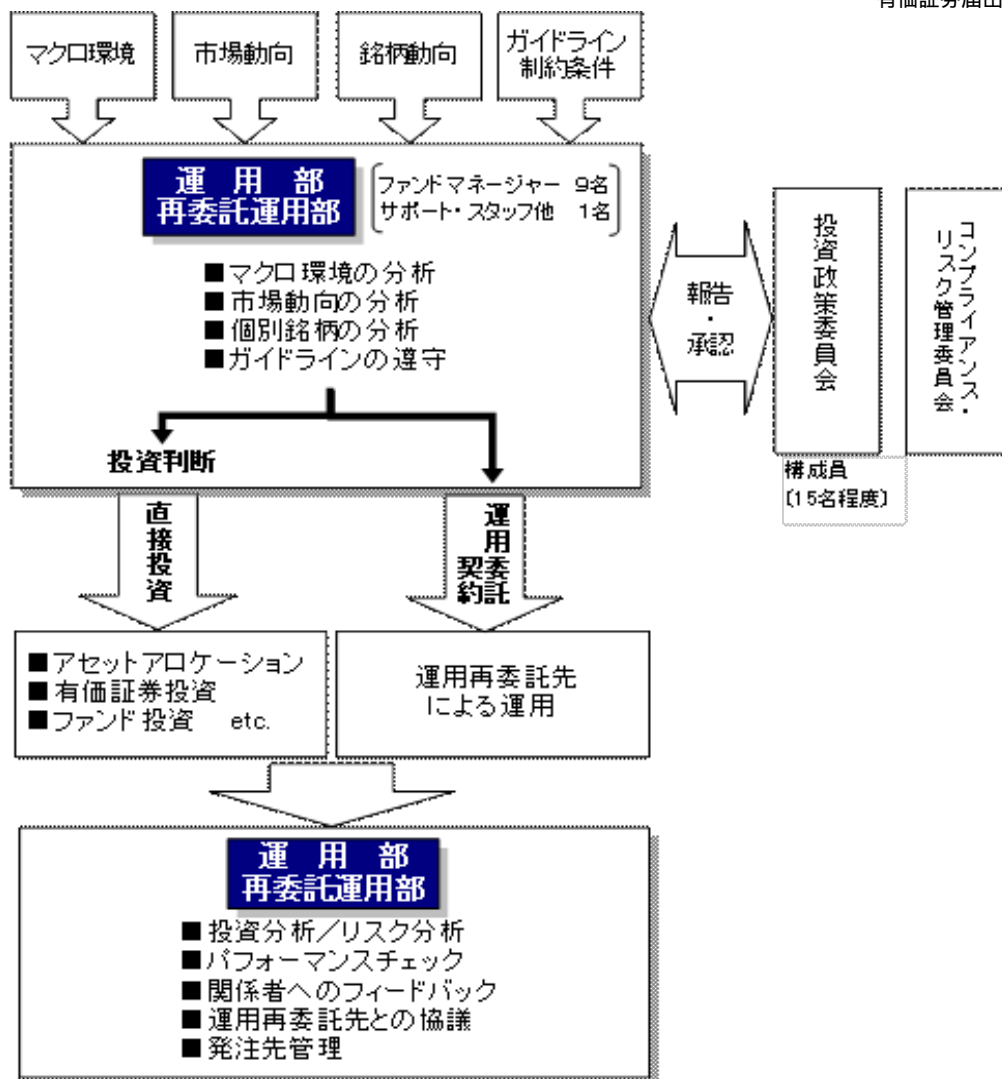
上記 の規定にかかわらず、当ファンドの設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託会社が運用上必要と認めるときは、委託会社は、信託金を上記 に掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

(3) 【運用体制】

委託会社の運用体制

- ・ 原則として毎月2回開催される投資政策委員会において、ファンドの運用の指図権限を委託している投資顧問会社の運用が、運用委託契約、ファンドの投資基本方針、投資対象および投資制限に沿う形で行われているか、遵守状況の確認等を行います。
- ・ 同委員会では、併せて運用にかかる法令および運用ガイドライン等の遵守・違反発生状況、改善後の状況等がコンプライアンス・オフィサーより報告され、必要に応じて関係部署に対し改善指示を行います。

（下記「3 投資リスク」の「(2) リスク管理体制」と併せてご参照ください。）



- 運用部および再委託運用部では、マクロ景気動向、各資産の市場動向、個別銘柄の動向に関して調査、分析を行い、これらをもとに投資を行い、また、運用再委託先の評価を行います。
- 投資信託に対する投資を行う場合は、ポートフォリオ全体から見た投資の適切性および投資信託の相対的な優位性等を検討した上で、これを実施します。
- 投資および運用再委託先の運用モニタリングにおいて、運用ガイドラインの遵守状況、また、これに定められた制約条件に沿った運用が確行されていることを確認します。
- 運用計画、発注先の評価、その他運用に関し付議すべき事項に関しては、投資政策委員会に付議され、運用実績、ガイドラインの遵守状況、ファンド運営に関する過誤の有無、発注実績等については、報告事項として投資政策委員会で報告されます。また、これらについてのコンプライアンス上の事項に関しては、コンプライアンス・リスク管理委員会に付議され、あるいは報告されます。
- 運用部では、運用の結果である、運用実績、ポートフォリオの状況等についてモニタリングを実施し、評価、評価レポートの作成、運用再委託先との協議および発注状況の管理等を実施します。
- 運用再委託先または必要に応じてファンドの運用者に対するデューディリジェンスを定期的 to 実施します。

社内規程

以下の規程等に基づき運営しております。

- ・「投資政策委員会」運営規程
- ・コンプライアンス・リスク管理委員会規程
- ・ファンド・マネージャーサービス規程
- ・運用の再委託等についての規程
- ・投資信託財産として有する株式に係る議決権の行使に関する規程

受託銀行に関する管理体制について

信託財産の管理業務の遂行能力として、受託銀行の信託事務の正確性・迅速性、システム対応力等を総合的に検証し、定期的な資産残高照合等を通じて業務が適切に遂行されているかの確認を行います。また、内部統制報告書を定期的に入手し、報告を受けています。

（注）上記の運用体制は平成23年2月末現在のものであり、今後変更となる場合があります。

BNYメロンARXインベストメントSLTDAの運用体制

当ファンドの運用は、委託会社から運用の指図に関する権限の委託を受けた「BNYメロンARX」が行います。

ポートフォリオ・マネージャー

運用委員会

- 毎日: マクロ経済チーム、債券運用チームとの合同ミーティング
- 週1回: リサーチ・アナリストと詳細なミーティング

株式リサーチチーム

各セクターに注力したリサーチ体制

| | | | | |
|---------|-----------|---------|----------|----------|
| ● 鉱業 | ● 公益事業 | ● 銀行 | ● 石油化学製品 | ● 電話・通信 |
| ● 金属 | ● 水道/下水処理 | ● 保険 | ● 肥料 | ● 小売 |
| ● 工業 | ● 道路 | ● 金融 | ● 消費財 | ● テクノロジー |
| ● 教育 | ● 物流 | ● 証券取引所 | ● 食品 | ● 輸送 |
| ● 石油・ガス | ● 建設/不動産 | ● ヘルスケア | ● バイオ燃料 | ● 紙・パルプ |

出所：BNYメロンARX

（注）上記の運用体制は平成22年12月末現在のものであり、今後変更される場合があります。

（4）【分配方針】

収益分配方針

毎決算時（原則として毎年6月15日および12月15日、休業日の場合は翌営業日。）に、原則として以下の方針に基づき収益の分配を行います。

- 分配対象額の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当収入および売買益（評価益を含みます。）の全額とします。なお、前期から繰越された分配準備積立金および収益調整金のうちその他調整金は、全額分配に使用することができます。
- 収益分配金額は、基準価額水準等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないことがあります。
- 留保益の運用については、特に制限を設けず運用の基本方針に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

収益の分配方法

- 信託財産から生ずる毎計算期末における利益は、次の方法により処理します。
 - 配当金、利子、貸付有価証券にかかる品貸料およびこれらに類する収益から支払利息を控除した額（以下「配当等収益」といいます。）は、諸経費、信託報酬および当該信託報酬にかかる消費税および地方消費税（以下「消費税等」または「税」といいます。）に相当する金額を控除した後、その残金を受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配金にあてるため、その一部を分配準備積立金として積立てることができます。
 - 売買損益に評価損益を加減して得た利益金額（以下「売買益」といいます。）は、諸経費、信託報酬および当該信託報酬にかかる消費税等に相当する金額を控除し、繰越欠損金のあるときは、その全額を売買益をもって補てんした後、受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配にあてるため、分配準備積立金として積立てることができます。
- 毎計算期末において、信託財産につき生じた損失は、次期に繰越します。

収益分配金は、決算日において振替機関および当該振替機関の下位の口座管理機関（以下「振替機関等」といいます。）の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とします。）に原則として決算日から起算して5営業日目までにお支払いを開始します。

「自動継続投資コース」をお申込みの場合は、収益分配金は税金を差引いた後、決算日の翌営業日に、無手数料で自動的に再投資されます。再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

（5）【投資制限】

当ファンドの信託約款に定める投資制限

a. 株式への投資割合

株式（新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。）への投資割合には、制限を設けません。

b. 投資する株式等の範囲

1. 委託会社が投資することを指図する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は、金融商品取引所に上場されている株式の発行会社の発行するものおよび金融商品取引所に準ずる市場において取引されている株式の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式、新株引受権証券および新株予約権証券については、この限りではありません。

2. 上記1.の規定にかかわらず、上場予定の株式、新株引受権証券および新株予約権証券で目論見書等において上場されることが確認できるものについては、委託会社が投資することを指図することができるものとします。

金融商品取引所とは、金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号ロに規定する外国金融商品市場をいいます。なお、金融商品取引所を単に「取引所」という場合があります。

c. 新株引受権証券等への投資割合

委託会社は、信託財産に属する新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額が、取得時において信託財産の純資産総額の100分の20を超えることとなる投資の指図を行いません。

d. 投資信託証券への投資割合

委託会社は、信託財産に属する投資信託証券の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

e. 外貨建資産への投資制限

外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。

f. 同一銘柄への投資割合

1. 委託会社は、信託財産に属する同一銘柄の株式の時価総額が、取得時において信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。

2. 委託会社は、信託財産に属する同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

3. 委託者は、信託財産に属する同一銘柄の転換社債ならびに転換社債型新株予約権付社債の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる指図をしません。

信託約款上のその他の投資制限

a. 信用取引の指図

1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売付けることの指図をすることができます。なお、当該売付けの決済については、株券の引渡しまたは買戻しにより行うことの指図をすることができるものとします。

2. 上記1.の信用取引の指図は、当該売付けにかかる建玉の時価総額が、信託財産の純資産総額の範囲内とします。

3. 信託財産の一部解約等の事由により、上記2.の売付けにかかる建玉の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する売付けの一部を決済するための指図をするものとします。

b. 先物取引等の運用指図・目的

1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクを回避するため、わが国における有価証券先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号イならびに第4号イに掲げるものをいいます。）、有価証券指数等先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ロならびに第4号ロに掲げるものをいいます。）および有価証券オプション取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ハならびに第4号ハに掲げるものをいいます。）ならびに外国におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引は、オプション取引に含めて取扱うものとします（以下同じ。）。

2. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、ならびに為替変動リスクを回避するため、わが国の金融商品取引所における通貨にかかる先物取引およびオプション取引ならびに外国の金融商品取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。

3. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクを回避するため、わが国の金融商品取引所における金利にかかる先物取引およびオプション取引ならびに外国の金融商品取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。

c. スワップ取引の運用指図・目的

1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、異なった通貨、異なった受取金利または異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引（以下「スワップ取引」といいます。）を行うことの指図をすることができます。

2. スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が、原則として信託約款に定める信託期間

を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。

3. スワップ取引の評価は、市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。
 4. 委託会社は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。
- d. 金利先渡取引、為替先渡取引および直物為替先渡取引の運用指図・目的
1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、金利先渡取引、為替先渡取引および直物為替先渡取引を行うことの指図をすることができます。
 2. 金利先渡取引、為替先渡取引および直物為替先渡取引の指図にあたっては、当該取引の決済日が、原則として信託約款に定める信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
 3. 金利先渡取引、為替先渡取引および直物為替先渡取引の評価は、市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。
 4. 委託会社は、金利先渡取引、為替先渡取引および直物為替先渡取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。
「金利先渡取引」とは、当事者間において、あらかじめ将来の特定の日（以下「決済日」といいます。）における決済日から一定の期間を経過した日（以下「満期日」といいます。）までの期間にかかる国内または海外において代表的利率として公表される預金契約または金銭の貸借契約に基づく債権の利率（以下「指標利率」といいます。）の数値を取決め、その取決めにかかる数値と決済日における当該指標利率の現実の数値との差にあらかじめ元本として定めた金額および当事者間で約定した日数を基準とした数値を乗じた額を決済日における当該指標利率の現実の数値で決済日における現在価値に割引いた額の金銭の授受を約する取引をいいます。
「為替先渡取引」とは、当事者間において、あらかじめ決済日から満期日までの期間にかかる為替スワップ取引（同一の相手方との間で直物外国為替取引および当該直物外国為替取引と反対売買の関係に立つ先物外国為替取引を同時に約定する取引をいいます。）のスワップ幅（当該直物外国為替取引にかかる外国為替相場と当該先物外国為替取引にかかる外国為替相場との差を示す数値をいいます。）を取決め、その取決めにかかるスワップ幅から決済日における当該為替スワップ取引の現実のスワップ幅を差引いた値にあらかじめ元本として定めた金額を乗じた額を決済日における指標利率の数値で決済日における現在価値に割引いた額の金銭またはその取決めにかかるスワップ幅から決済日における当該為替スワップ取引の現実のスワップ幅を差引いた値にあらかじめ元本として定めた金額を乗じた金額とあらかじめ元本として定めた金額について決済日を受渡日として行った先物外国為替取引を決済日における直物外国為替取引で反対売買したときの差金にかかる決済日から満期日までの利息とを合算した額を決済日における指標利率の数値で決済日における現在価値に割引いた額の金銭の授受を約する取引をいいます。
「直物為替先渡取引」とは、当事者間において、あらかじめ元本として定めた金額について決済日を受渡日として行った先物外国為替取引を決済日における直物外国為替取引で反対売買したときの差金の授受を約する取引その他これに類似する取引をいいます。
- e. 有価証券の貸付の指図および範囲
1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債につき、次の範囲内で貸付けることの指図をすることができます。
株式の貸付は、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価合計額を超えないものとします。
公社債の貸付は、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額を超えないものとします。
 2. 上記1. の限度額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。
 3. 委託会社は、有価証券の貸付にあたって必要と認めるときは、担保の受入れの指図を行うものとします。
- f. 公社債の空売りの指図および範囲
1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産の計算において信託財産に属さない公社債を売付けることの指図をすることができます。なお、当該売付けの決済については、公社債（信託財産により借入れた公社債を含みます。）の引渡しまたは買戻しにより行うことの指図をすることができるものとします。
 2. 上記1. の売付けの指図は、当該売付けにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
 3. 信託財産の一部解約等の事由により、上記2. の売付けにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する売付けの一部を決済するための指図をするものとします。

g. 公社債の借入れ

1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、公社債の借入れの指図をすることができます。なお、当該公社債の借入れを行うにあたり担保の提供が必要と認めるときは、担保の提供の指図をするものとします。
2. 上記1. の指図は、当該借入れにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
3. 信託財産の一部解約等の事由により、上記2. の借入れにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する借入れた公社債の一部を返還するための指図をするものとします。
4. 上記1. の借入れにかかる品借料は信託財産中から支払います。

h. 特別の場合の外貨建有価証券への投資制限

外貨建有価証券（外国通貨表示の有価証券をいいます。以下同じ。）への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。

i. 外国為替予約取引の指図

1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、ならびに信託財産に属する外貨建資産（外貨建有価証券、外国通貨表示の預金その他の資産をいいます。以下同じ。）の為替変動リスクを回避するため、外国為替の売買の予約取引を指図することができます。
2. 上記1. の予約取引の指図は、信託財産にかかる為替の買予約の合計額と売予約の合計額との差額につき円換算した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。ただし、信託財産に属する外貨建資産の為替変動リスクを回避するためにする当該予約取引の指図については、この限りではありません。
3. 上記2. の限度額を超えることとなった場合には、委託会社は所定の期間内に、その超える額に相当する為替予約の一部を解消するための外国為替の売買の予約取引の指図をするものとします。

j. 有価証券の売却等の指図

委託会社は、信託財産に属する有価証券の売却等の指図ができます。

k. 再投資の指図

委託会社は、上記 j. の規定による有価証券の売却代金、有価証券にかかる償還金等、株式の清算分配金、有価証券等にかかる利子等、株式の配当金およびその他の収入金を再投資することの指図ができます。

l. 資金の借入れ

1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性を図るため、一部解約に伴う支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。）を目的として、または再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。
2. 一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、有価証券等の解約代金および有価証券等の償還金の合計額を限度とします。ただし、資金借入額は、借入指図を行う日における信託財産の純資産総額の10%を超えないこととします。
3. 収益分配金の再投資にかかる借入期間は信託財産から収益分配金が支払われる日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。
4. 借入金の利息は信託財産中より支払います。

m. 受託会社による資金の立替え

1. 信託財産に属する有価証券について、借替、転換、新株発行または株式割当がある場合で、委託会社の申出があるときは、受託会社は資金の立替えをすることができます。
2. 信託財産に属する有価証券にかかる償還金等、株式の清算分配金、有価証券等にかかる利子等、株式の配当金およびその他の未収入金で、信託終了日までその金額を見積りうるものがあるときは、受託会社がこれを立替えて信託財産に繰入れることができます。
3. 上記1. および2. の立替金の決済および利息については、受託会社と委託会社との協議により、そのつど別にこれを定めます。

その他法令上の投資制限

- a. 委託会社は、投資信託財産に関し、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法により算出した額が当該投資信託財産の純資産額を超えることとなる場合において、デリバティブ取引（新株予約権証券またはオプションを表示する証券もしくは証書にかかる取引および選択権付債券売買を含みます。）を行い、または継続することを受託会社に指図しないものとします。

（金融商品取引業等に関する内閣府令）

- b. 委託会社は、同一の法人の発行する株式について、運用の指図を行う全ての委託者指図型投資信託につき、投資信託財産として有する当該株式にかかる議決権（株主総会において決議をすることができる事項の全部につき議決権を行使することができない株式についての議決権を除き、会社法第879条第3項の規定により議決権を有するものとみなされる株式についての議決権を含む。）が、当該株式にかかる議決権の総数に100分の50を乗じて得た数を超えることとなる場合において、投資信託財産をもって当該株式を取得することを受託会社に指図しないものとします。（投資信託及び投資法人に関する法律）

3【投資リスク】

(1) ファンドのリスクおよび留意点

当ファンドは、主としてブラジル企業の株式への投資を行いますので、組入れた有価証券等の値動き（外貨建資産には為替変動もあります。）により当ファンドの基準価額は大きく変動することがあります。したがって、当ファンドは、元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により解約・償還金額が投資元本を下回り、損失を被る可能性があります。運用により信託財産に生じた利益または損失は、すべて受益者に帰属します。当ファンドは、預金保険または保険契約者保護機構の対象ではありません。

価格変動リスク

株式（先物取引を含みます。）の価格動向は、個々の企業の活動や、国内および国際的な政治・経済情勢の影響を受けます。そのため、当ファンドの投資成果は、株式の価格変動があった場合、元本欠損を含む重大な損失が生じる場合があります。

株式の発行企業の信用リスク

当ファンドは、株式への投資を行うため、株式発行企業の信用リスクを伴います。株式発行企業の経営・財務状況の悪化等に伴う株価の下落により、当ファンドの基準価額が下落し元本欠損が生ずるおそれがあります。発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金がほとんど回収できなくなることもあります。

流動性リスク

流動性リスクは、有価証券等を売却あるいは購入しようとする際に、買い需要がなく希望する時期に希望する価格で売却することが不可能となることあるいは売り供給がなく希望する時期に希望する価格で購入することが不可能となること等のリスクのことをいいます。市場規模や取引量が小さい市場に投資する場合、また市場環境の急変等があった場合、流動性の状況によって期待される価格で売買できないことがあり基準価額の変動要因となります。特に、新興市場の銘柄は、一般的に流動性が低く、価格変動も高い傾向があります。

為替変動リスク

為替変動リスクは、外国為替相場の変動により外貨建資産の価額が変動するリスクのことをいいます。外貨建資産を保有する場合、当該通貨と円の為替変動の影響を受け、外貨建資産の価額が損失を生じることがあります。一般に当該資産の通貨に対して円高になった場合にはファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

当ファンドは為替ヘッジを行いませんので、為替変動により、信託財産の価値が大きく変動することがあります。

カントリー・リスク

新興国に投資する場合、投資対象国における非常事態（金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資金凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争など）などにより、運用上予期しない制約を受ける可能性があります。また、情報の開示などの基準が先進国とは異なることから、投資判断に際して正確な情報を十分に確保できない場合があります。加えて、税制においても先進国と異なる場合があり、一方的に税制が変更されることもあります。

以上のような要因は、ファンドの価値を大幅に変動または下落させる可能性があります。

受益者の解約・追加による資金流出入に伴うリスク

一度に大量の解約があった場合に、解約資金の手当てをするため保有証券を大量に売却することがあります。その際に当ファンドの信託財産の価値が大きく変動する可能性があります。また、大量の資金の追加があった場合には、原則として、迅速に有価証券の組入れを行います。買付け予定銘柄によっては流動性などの観点から買付け終了までに時間がかかることもあります。

ブローカーの信用リスク

当ファンドの資産のなかで、取引の証拠金やプレミアム等を表す現金またはその他の資産は、先物ブローカーで保管されることがあります。当ファンドの資産の全部または一部が保管されているブローカーの債務不履行によって、当ファンドの資産の一部または相当の額が失われることがあります。

当ファンド以外の投資運用を行うことによるリスク

投資顧問会社および委託会社は、当ファンド以外にも金銭信託または他の投資信託等の運用を担っており、当該金銭信託または他の投資信託で行う売買ならびに先物取引等が、その結果として当ファンドの利益に反することがあります。

当ファンドの資産規模にかかる留意点

当ファンドの資産規模によっては、分散投資が効率的にできない場合があります。その場合には、適切な資産規模の場合と比較して収益性が劣る可能性があります。

収益分配方針にかかる留意点

当ファンドは、計算期末に基準価額水準に応じて、信託約款（運用の基本方針）に定める収益分配方針により分配を行います。ただし、委託会社の判断により分配が行われないこともあります。

受託会社の信用力にかかる留意点

受託会社の格付け低下、その他の事由によりその信用力が低下した場合には、為替取引その他の取引の相手方の提供するクレジット・ラインが削除される可能性があり、為替取引ができなくなる可能性があります。さらに、その場合には為替取引に関して適用される契約の条項にしたがい、すでに締結されている当該契約が一括清算される可能性もあります。これらの場合には、そのような事情がない場合と比較して収益性が劣る可能性があります。

法令・税制・会計制度等の変更の可能性

日本およびその他の投資対象国の法令・税制・会計制度等は今後変更される可能性もあります。

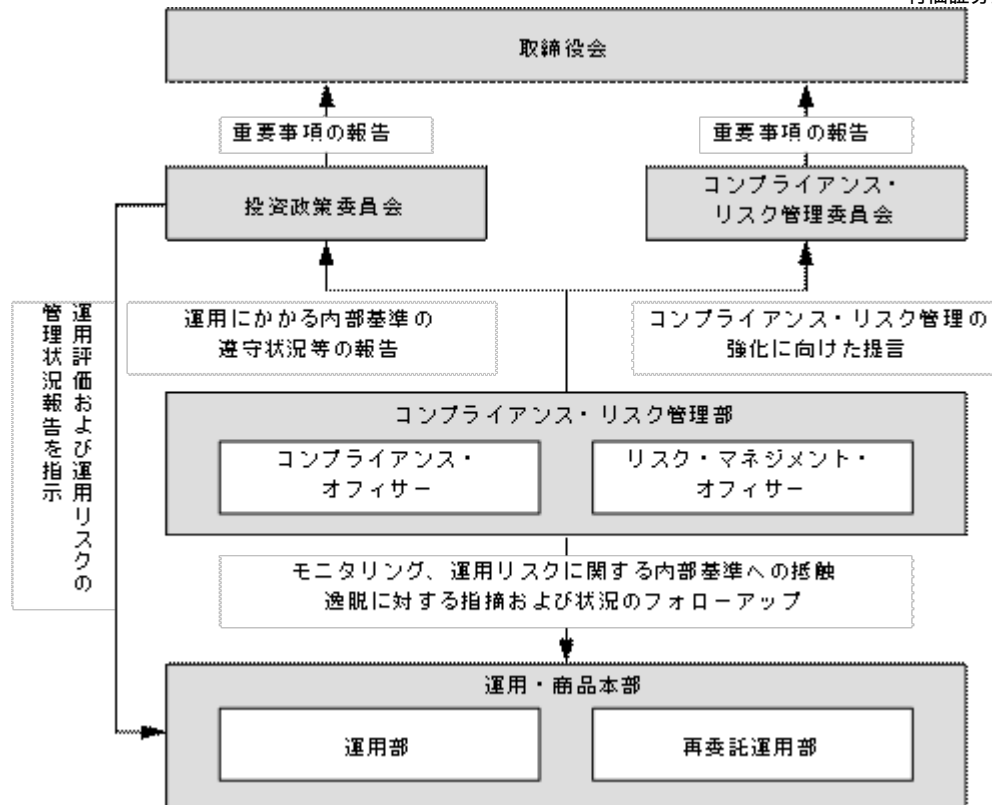
- * ブラジル国内株式への投資に伴う為替取引については、非居住者に対して金融取引税が課せられ、基準価額を下落させる要因となります。ブラジルにおける当該関係法令等が改正された場合には、取扱いが変更されることがあります。

(2) リスク管理体制

委託会社のファンドの運用におけるリスク管理については、運用部門における日々のモニタリングに加えて、運用部門から独立した組織体制においても行っています。

| | |
|-------------------------------------|--|
| 投資政策委員会 (原則毎月2回開催) | ファンドの運用計画案の審議、運用実績の評価、運用に関する法令および内部規則の遵守状況の確認、最良執行に関する方針の策定および確認を行っています。 |
| コンプライアンス・ リスク管理委員会 (原則毎月1回開催) | コンプライアンスおよびリスク管理にかかる審議・決定を行い、委託会社の法令遵守・リスク管理として必要な内部管理体制を確保します。 |
| コンプライアンス・ オフィサー | コンプライアンスの観点から、各部署の指導・監督を行うと同時に、法令等の遵守体制の維持・強化に向けた役職員の啓蒙・教化に努めます。 |
| リスク・マネジメント・ オフィサー | 運用リスクを含む、各種リスク要因の認識、評価、統制、残存リスクの把握を行い、リスクの軽減・管理に努めます。 |

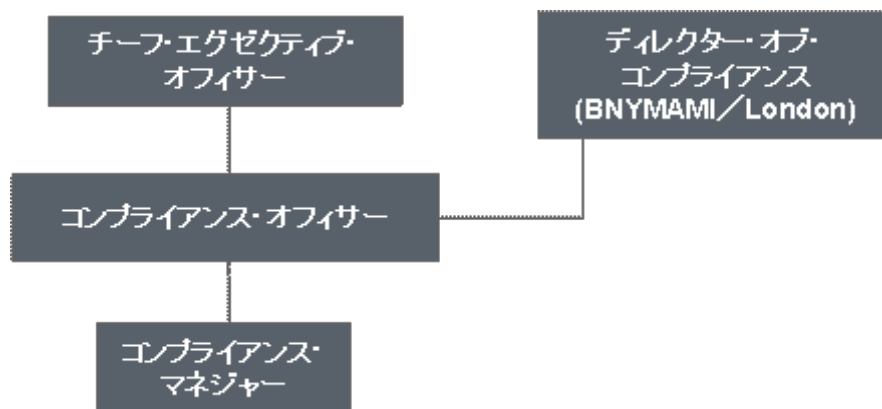
運用リスクの管理は、以下の体制で行います。



（注）上記の管理体制は平成23年2月末現在のものであり、今後変更となる場合があります。

<参考> 投資顧問会社（B N Yメロン A R Xインベスティメントス L T D A）のリスク管理体制

- ・初期の銘柄ユニバースから高いリスク調整後リターンを得られるよう定量的手法によりポートフォリオを構築しますが、その際、個別銘柄の組入比率をチェックしています。
- ・バーラ社のマルチファクター・モデルを用いてリスクおよびパフォーマンスの要因分解を行います。
- ・当社のリスク管理グループは各ポートフォリオのリスク特性を個別に管理し、ロンドンのB N Yメロン・アセット・マネジメント・インターナショナル（B N Y M A M I）のヘッド・リスク&コンプライアンスの監督下にある現地チーフ・リスク&コンプライアンス・オフィサーに報告します。



（注）上記の管理体制は平成22年12月末現在のものであり、今後変更される場合があります。

4 【手数料等及び税金】

(1) 【申込手数料】

3.15%（税抜 3.0%）を上限として販売会社が定める申込手数料率^{*}を、取得申込日の翌営業日の基準価額に乗じて得た額が申込手数料となります。ただし、税引後の収益分配金を再投資する場合の受益権の価額は、原則として毎計算期間終了日の基準価額とし、申込手数料は無手数料となります。申込手数料は、お申込時にご負担いただきます。

詳しくは、販売会社または下記の照会先までお問い合わせください。

^{*} 当該申込手数料は、消費税等相当額を含みます。

（委託会社の照会先）

BNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社

電話番号（代表）03-5288-6431（営業日の午前9時から午後5時まで）

ホームページ <http://www.bnymellonam.jp/>

取得申込みには、収益分配金の受取方法により、収益の分配時に収益分配金を受取るコース（以下「一般コース」といいます。販売会社により名称が異なる場合があります。以下同じ。）と、収益分配金が税引き後無手数料で再投資されるコース（以下「自動継続投資コース」といいます。販売会社により名称が異なる場合があります。以下同じ。）の2つのコースがあります。

取扱コースおよび申込手数料は、販売会社によって異なります。詳しくは、販売会社までお問い合わせください。

(2) 【換金（解約）手数料】

換金（解約）手数料はありません。

(3) 【信託報酬等】

信託報酬は、信託期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に年10,000分の196.35（税抜 年10,000分の187）の率を乗じて得た額とし、信託財産の費用として計上されます。

信託報酬および信託報酬にかかる消費税等に相当する金額は、毎計算期末または信託終了のとき、信託財産中から支払われます。信託報酬の配分は、以下のとおりです。

| 信託報酬合計 | 委託会社 | 販売会社 | 受託会社 |
|-----------------------|----------------------|----------------------|-----------------------|
| 年1.9635% （税抜1.87%） | 年0.945% （税抜0.90%） | 年0.945% （税抜0.90%） | 年0.0735% （税抜0.07%） |

上記の信託報酬には、消費税等相当額が含まれております。

委託会社の受取る報酬には、当ファンドにおいて運用の指図権限を委託しているBNYメロンARXインベストメントSLTD Aへの投資顧問報酬が含まれます。その報酬額は、信託財産の時価総額に、年10,000分の63の率を乗じて得た額とします。

(4) 【その他の手数料等】

- ・当ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、先物・オプション取引等に要する費用および当ファンドの借入金利息。
- ・外貨建資産の保管費用。
- ・信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託会社の立替えた立替金の利息。
- ・信託財産の財務諸表の監査費用（消費税等相当額を含みます。）は、委託会社が当該費用にかかる金額をあらかじめ合理的に見積もったうえ、計算期間を通じて毎日、一定率または一定金額にて計上するものとします。
- ・委託会社による信託財産の管理、運営にかかる以下の費用。
 1. 法律顧問、税務顧問への報酬。
 2. 有価証券届出書、有価証券報告書等法定提出書類の作成、印刷および提出等にかかる費用。
 3. 目論見書の作成、印刷および交付等にかかる費用。
 4. 運用報告書の作成、印刷および交付等にかかる費用。
 5. 信託約款の変更または信託契約の解約にかかる事項を記載した書面の作成、印刷および交付等にかかる費用。
 6. 信託契約にかかる受益者に対して行う公告等にかかる費用。
 7. その他信託事務の管理、運営にかかる費用。

上記1. から7. までの費用の支払いを当ファンドのために行い、その金額を合理的に見積もった結果、信託財産の純資産総額に年0.05%の率を乗じて得た金額を上限として、計算期間を通じて、当該費用にかかる消費税等に相当する金額とともに、毎日計上するものとします。

(注) ブラジル国内株式への投資に伴う為替取引については、非居住者に対して金融取引税（平成22年12月末現在 2.0%）が課せられます。ブラジルにおける当該関係法令等が改正された場合には、取扱いが変更されることがあります。

・上記の監査費用および運営にかかる費用とその消費税等に相当する金額は、信託報酬支払いのときに信託財産中から支払われます。

その他の手数料等については、資産規模および運用状況等により変動しますので、事前に料率、上限額等を表示することができません。

上記費用の総額につきましては、投資家の皆様の保有される期間等により異なりますので、表示することができません。

税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。

(5) 【課税上の取扱い】

個別元本について

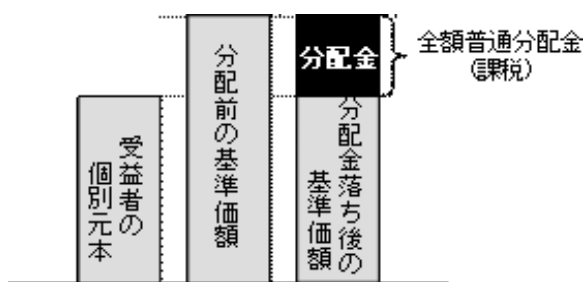
- a. 追加型株式投資信託について、受益者ごとの信託時の受益権の価額等（申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税等に相当する金額は含まれません。）が、当該受益者の元本（個別元本）にあたります。
- b. 受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、原則として、個別元本は当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。
- c. ただし、同一ファンドを複数の販売会社で取得する場合については、販売会社ごとに個別元本の算出が行われます。また、同一販売会社であっても複数口座で同一ファンドを取得する場合は当該口座ごとに、個別元本の算出が行われる場合があります。
- d. 受益者が特別分配金を受取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該特別分配金を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

収益分配金の課税について

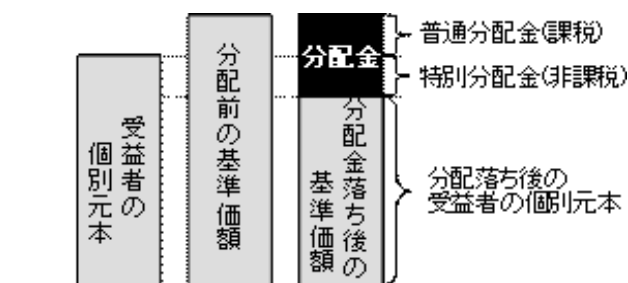
追加型株式投資信託の収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と非課税扱いとなる「特別分配金」（受益者ごとの元本一部払戻しに相当する部分）の区分があります。

受益者が収益分配金を受取る際、

- a. 当該収益分配金落ち後の基準価額が「受益者ごとの個別元本」と同額の場合または当該個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となります。



- b. 当該収益分配金落ち後の基準価額が「受益者ごとの個別元本」を下回っている場合には、その下回る部分の額が特別分配金となり、当該収益分配金から当該特別分配金を控除した額が普通分配金となります。



個人、法人別の課税の取扱いについて

a. 個人の受益者に対する課税

1. 収益分配金に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金は配当所得となり、10%（所得税7%および地方税3%）の税率による源泉徴収が行われ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告を行うことにより総合課税または申告分離課税のいずれかを選択することもできます。

2. 一部解約金および償還金に対する課税

一部解約時および償還時の差益（解約価額または償還価額から取得費を控除した利益をいいます。）は譲渡所得とみなされ、10%（所得税7%および地方税3%）の税率による申告分離課税が適用されます。ただし、特定口座（源泉徴収口座）利用の場合は、10%（所得税7%および地方税3%）の税率による源泉徴収が行われ、原則として確定申告は不要です。

上記1. および2. の10%の税率は、平成24年1月1日からは、20%（所得税15%および地方税5%）となる予定です。

3. 損益通算について

一部解約時もしくは償還時の差損（譲渡損）は、確定申告等を行うことにより、上場株式等（公募株式投資信託、特定株式投資信託（ETF）および特定不動産投資信託（REIT）などを含みます。）の譲渡益および上場株式等の配当所得（申告分離課税を選択したものに限り、）との損益通算ができます。また、一部解約時もしくは償還時の差益（譲渡益）は、他の上場株式等の譲渡損との損益

通算ができます。ただし、特定口座（源泉徴収口座）利用の場合は、原則として確定申告は不要です。

b. 法人の受益者に対する課税

- ・ 収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに一部解約時および償還時の受益者ごとの個別元本超過額は、7%（所得税7%）の税率による源泉徴収が行われます。なお、地方税の源泉徴収はありません。
- ・ 上記7%の税率は、平成24年1月1日からは、15%（所得税15%）となる予定です。
- ・ 益金不算入制度は適用されません。

（参考）個人の受益者に対する課税

以下は個人の受益者の場合の税率です。法人の場合は税率等が異なります。

| 時期 | 項目 | 税金 | |
|---------------|---------------|--------------------------------|---------------------------------|
| | | 平成21年1月1日から 平成23年12月31日まで | 平成24年1月1日以降 |
| 収益分配時 | 所得税および 地方税 | 普通分配金に対して 10%（所得税7%、地方税3%） | 普通分配金に対して 20%（所得税15%、地方税5%） |
| 換金時 （解約請求） | 所得税および 地方税 | 解約時の差益に対して 10%（所得税7%、地方税3%） | 解約時の差益に対して 20%（所得税15%、地方税5%） |
| 償還時 | 所得税および 地方税 | 償還時の差益に対して 10%（所得税7%、地方税3%） | 償還時の差益に対して 20%（所得税15%、地方税5%） |

（注）「課税上の取扱い」の内容は平成23年2月末現在のものであり、税法が改正された場合等には、内容が変更になることがあります。課税上の取扱い等については、税務専門家に相談することをお勧めします。

5【運用状況】

（1）【投資状況】

（平成23年1月31日現在）

| 資産の種類 | 国/地域 | 時価合計（円） | 投資比率（%） |
|---------------------|------|---------------|---------|
| 株式 | ブラジル | 6,795,949,173 | 95.31 |
| 現金・預金・その他の資産（負債控除後） | | 334,405,238 | 4.69 |
| 合計（純資産総額） | | 7,130,354,411 | 100.00 |

（注）投資比率は、当ファンドの純資産総額に対する当該資産の比率です。

（2）【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

（平成23年1月31日現在）

| 国/ 地域 | 種類 | 銘柄名 | 業種 | 数量 | 帳簿価額 | | 評価額 | | 投資 比率 （%） |
|----------|----|------------------------------|-------------|---------|-----------|-------------|-----------|-------------|-----------------|
| | | | | | 単価 （円） | 金額 （円） | 単価 （円） | 金額 （円） | |
| ブラジル | 株式 | CIA DE CONCESSOES RODOVIARIA | 運輸 | 176,400 | 2,142.15 | 377,876,212 | 2,232.67 | 393,844,028 | 5.52 |
| ブラジル | 株式 | OBRASCON HUARTE LAIN BRASIL | 運輸 | 131,800 | 2,911.33 | 383,713,953 | 2,813.47 | 370,816,005 | 5.20 |
| ブラジル | 株式 | GERDAU SA-PREF | 素材 | 323,500 | 1,122.94 | 363,272,222 | 1,027.53 | 332,405,955 | 4.66 |
| ブラジル | 株式 | IOCHPE-MAXION SA | 資本財 | 274,300 | 1,110.71 | 304,668,027 | 993.27 | 272,456,429 | 3.82 |
| ブラジル | 株式 | SANTOS BRASIL PARTICIPACOES | 運輸 | 229,700 | 1,125.39 | 258,502,083 | 1,173.83 | 269,628,911 | 3.78 |
| ブラジル | 株式 | CIA ENERGETICA DE SP-PREF B | 公益事業 | 182,500 | 1,374.44 | 250,835,975 | 1,384.71 | 252,711,217 | 3.54 |
| ブラジル | 株式 | VALE SA-PREF A | 素材 | 100,000 | 2,482.21 | 248,221,890 | 2,497.87 | 249,787,650 | 3.50 |
| ブラジル | 株式 | ULTRAPAR PARTICIPACOES-PREF | エネルギー | 47,200 | 5,132.75 | 242,266,130 | 5,196.36 | 245,268,475 | 3.44 |
| ブラジル | 株式 | MARCOPOLO SA-PREF | 資本財 | 836,100 | 347.40 | 290,463,648 | 287.70 | 240,552,993 | 3.37 |
| ブラジル | 株式 | DURATEX SA | 素材 | 300,000 | 873.40 | 262,020,150 | 773.09 | 231,928,200 | 3.25 |
| ブラジル | 株式 | ECORODOVIAS INFRA E LOG SA | 運輸 | 351,400 | 633.64 | 222,662,325 | 640.98 | 225,241,426 | 3.16 |
| ブラジル | 株式 | LOJAS AMERICANAS SA-PREF | 小売 | 291,200 | 753.03 | 219,283,122 | 663.00 | 193,066,036 | 2.71 |
| ブラジル | 株式 | BRF-BRASIL FOODS SA | 食品・飲料・タバコ | 138,700 | 1,267.28 | 175,772,706 | 1,341.66 | 186,088,325 | 2.61 |
| ブラジル | 株式 | PDG REALTY SA | 耐久消費財・アパレル | 413,100 | 482.93 | 199,502,142 | 445.26 | 183,938,145 | 2.58 |
| ブラジル | 株式 | TOTVS SA | ソフトウェア・サービス | 23,800 | 8,513.82 | 202,628,916 | 7,708.92 | 183,472,331 | 2.57 |
| ブラジル | 株式 | CONFAB INDUSTRIAL S.A.-PREF | 素材 | 625,334 | 297.49 | 186,033,363 | 281.34 | 175,936,157 | 2.47 |
| ブラジル | 株式 | CIA PARANAENSE ENER-SP ADR P | 公益事業 | 79,200 | 2,005.61 | 158,844,676 | 2,080.35 | 164,763,949 | 2.31 |
| ブラジル | 株式 | COMPANHIA DE BEBIDAS-PRF ADR | 食品・飲料・タバコ | 72,900 | 2,348.09 | 171,176,249 | 2,221.61 | 161,955,842 | 2.27 |
| ブラジル | 株式 | RANDON PARTICIPACOES SA-PREF | 資本財 | 275,600 | 626.79 | 172,744,233 | 587.16 | 161,821,296 | 2.27 |
| ブラジル | 株式 | TRACTEBEL ENERGIA SA | 公益事業 | 127,100 | 1,328.44 | 168,845,931 | 1,253.09 | 159,268,666 | 2.23 |
| ブラジル | 株式 | LOJAS RENNEN S.A. | 小売 | 66,700 | 2,837.94 | 189,290,598 | 2,314.38 | 154,369,746 | 2.16 |
| ブラジル | 株式 | EDP - ENERGIAS DO BRASIL SA | 公益事業 | 71,900 | 1,776.15 | 127,705,832 | 1,798.17 | 129,288,962 | 1.81 |
| ブラジル | 株式 | MARFRIG ALIMENTOS SA | 食品・飲料・タバコ | 196,900 | 682.57 | 134,398,722 | 653.21 | 128,618,131 | 1.80 |
| ブラジル | 株式 | COSAN SA INDUSTRIA COMERCIO | 食品・飲料・タバコ | 98,200 | 1,247.71 | 122,525,613 | 1,271.20 | 124,831,977 | 1.75 |

| | | | | | | | | | |
|------|----|------------------------------|------------------|---------|----------|-------------|----------|-------------|------|
| ブラジル | 株式 | MILLS ESTRUTURAS E SERVICOS | 資本財 | 119,100 | 1,110.71 | 132,285,680 | 1,007.95 | 120,047,797 | 1.68 |
| ブラジル | 株式 | ALL AMERICA LATINA LOGISTICA | 運輸 | 169,100 | 730.52 | 123,531,760 | 691.87 | 116,995,250 | 1.64 |
| ブラジル | 株式 | EVEN CONSTRUTORA E INCORPORA | 耐久消費財・アパレル | 292,300 | 422.75 | 123,571,344 | 389.97 | 113,988,844 | 1.60 |
| ブラジル | 株式 | MPX ENERGIA SA | 公益事業 | 80,900 | 1,338.23 | 108,263,251 | 1,359.76 | 110,004,964 | 1.54 |
| ブラジル | 株式 | HYPERMARCAS S.A | 家庭用品・ パーソナル用品 | 112,700 | 1,247.71 | 140,617,480 | 971.26 | 109,461,058 | 1.54 |
| ブラジル | 株式 | CIA PARANAENSE DE ENERGIA | 耐久消費財・アパレル | 53,900 | 1,864.23 | 100,482,158 | 1,954.75 | 105,361,213 | 1.48 |

(注) 投資比率は、当ファンドの純資産総額に対する各銘柄の評価金額の比率です。

種類別および業種別投資比率

(平成23年1月31日現在)

| 種類 | 国内/外国 | 業種 | 投資比率(%) |
|----|-------|--------------|---------|
| 株式 | 外国 | 運輸 | 20.92 |
| | | 素材 | 19.22 |
| | | 公益事業 | 13.81 |
| | | 資本財 | 11.15 |
| | | 食品・飲料・タバコ | 8.44 |
| | | 耐久消費財・アパレル | 7.35 |
| | | 小売 | 4.87 |
| | | エネルギー | 4.18 |
| | | ソフトウェア・サービス | 2.57 |
| | | 家庭用品・パーソナル用品 | 1.54 |
| | | 電気通信サービス | 1.28 |
| 合計 | | | 95.31 |

(注) 投資比率は、当ファンドの純資産総額に対する当該業種の評価金額の比率です。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。(平成23年1月31日現在)

【その他投資資産の主要なもの】

為替予約取引

(平成23年1月31日現在)

| 資産の種類 | 売建/ 買建 | 通貨 | 数量 | 帳簿価額 (円) | 評価額 (円) | 投資比率 (%) |
|--------|-----------|-----|--------------|-------------|-------------|-------------|
| 為替予約取引 | 売建 | 米ドル | 1,426,000.00 | 117,368,033 | 117,103,120 | 1.64 |

(注1) 投資比率は、当ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率です。

(注2) 売建の投資比率は（マイナス）で表示しております。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

平成23年1月末日および同日前1年以内における各月末ならびに下記計算期間末の純資産額の推移は次のとおりです。

| 計算期間 | 年月日 | 純資産総額(円) | | 1口当たり純資産額(円) | |
|------|---------------|----------------|----------------|--------------|--------|
| | | (分配落) | (分配付) | (分配落) | (分配付) |
| 第1期末 | (平成22年 6月15日) | 19,933,631,593 | 19,933,631,593 | 0.8822 | 0.8822 |
| 第2期末 | (平成22年12月15日) | 8,596,936,184 | 8,837,580,874 | 1.0003 | 1.0283 |
| | 平成22年 1月末日 | 15,576,701,184 | - | 0.8461 | - |
| | 平成22年 2月末日 | 16,804,296,319 | - | 0.8731 | - |
| | 平成22年 3月末日 | 19,122,246,346 | - | 0.9376 | - |
| | 平成22年 4月末日 | 21,468,745,323 | - | 0.9755 | - |
| | 平成22年 5月末日 | 19,196,894,396 | - | 0.8554 | - |
| | 平成22年 6月末日 | 19,369,390,044 | - | 0.8627 | - |
| | 平成22年 7月末日 | 17,763,414,867 | - | 0.9305 | - |
| | 平成22年 8月末日 | 15,119,307,108 | - | 0.9075 | - |
| | 平成22年 9月末日 | 14,195,899,843 | - | 0.9749 | - |
| | 平成22年10月末日 | 10,842,921,030 | - | 0.9930 | - |
| | 平成22年11月末日 | 9,424,052,900 | - | 1.0137 | - |
| | 平成22年12月末日 | 8,150,288,455 | - | 0.9766 | - |
| | 平成23年 1月末日 | 7,130,354,411 | - | 0.9390 | - |

(注) 月末日とはその月の最終営業日を指します。

【分配の推移】

| 計算期間 | 1口当たりの分配金（円） |
|------------------------------|--------------|
| 第1期（平成22年 1月12日～平成22年 6月15日） | 0 |
| 第2期（平成22年 6月16日～平成22年12月15日） | 0.0280 |

【収益率の推移】

| 計算期間 | 収益率（％） |
|------------------------------|--------|
| 第1期（平成22年 1月12日～平成22年 6月15日） | 11.8 |
| 第2期（平成22年 6月16日～平成22年12月15日） | 16.6 |

（注）収益率とは、計算期間末の分配付基準価額から前期末分配落基準価額を控除した額を前期末分配落基準価額で除したものをいいます。なお、第1期については、前期末基準価額を1万口当たり10,000円として計算しています。

（4）【設定及び解約の実績】

（単位：口）

| 計算期間 | 設定口数 | 解約口数 | 残存口数 |
|------------------------------|----------------|----------------|----------------|
| 第1期（平成22年 1月12日～平成22年 6月15日） | 23,347,170,898 | 750,967,111 | 22,596,203,787 |
| 第2期（平成22年 6月16日～平成22年12月15日） | 318,510,847 | 14,320,261,392 | 8,594,453,242 |

（注1）第1期の設定口数には、当初募集期間中の設定口数を含みます。

（注2）上記数字は全て本邦内における設定および解約の実績です。

（参考情報）運用実績

3 運用実績

(2011年1月31日現在)

基準価額・純資産総額の推移（設定日(2010年1月12日)～2011年1月31日）



(注1) 基準価額、基準価額(分配金込み)は、1万口当たり信託報酬控除後です。

(注2) 基準価額(分配金込み)は、税引き前収益分配金を分配時に再投資したものと計算しています。

2011年1月31日現在

基準価額 9,390円

純資産総額 71億円

分配の推移

| | |
|----------|------|
| 2010年 6月 | 0円 |
| 2010年12月 | 280円 |
| — | — |
| — | — |
| — | — |
| 設定来累計 | 280円 |

(注)1万口当たり、税引き前

主な資産の状況

組入上位10銘柄

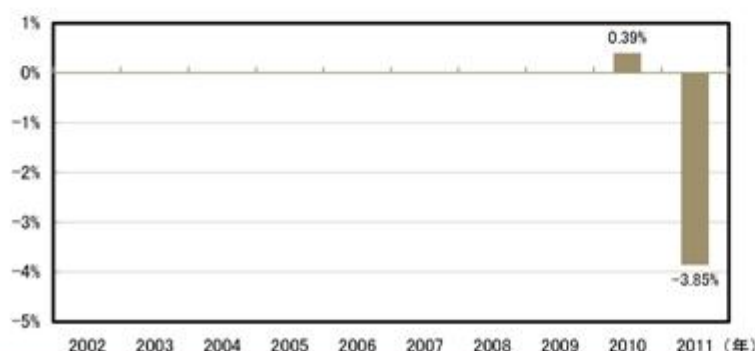
| 銘柄名 | 国/地域 | 種類 | 業種 | 投資比率(%) |
|--------------------------------|------|----|-------|---------|
| 1 CIA DE CONCESSOES RODOVIARIA | ブラジル | 株式 | 運輸 | 5.52 |
| 2 OBRASCON HUARTE LAIN BRASIL | ブラジル | 株式 | 運輸 | 5.20 |
| 3 GERDAU SA-PREF | ブラジル | 株式 | 素材 | 4.66 |
| 4 IOCHPE-MAXION SA | ブラジル | 株式 | 資本財 | 3.82 |
| 5 SANTOS BRASIL PARTICIPACOES | ブラジル | 株式 | 運輸 | 3.78 |
| 6 CIA ENERGETICA DE SP-PREF B | ブラジル | 株式 | 公益事業 | 3.54 |
| 7 VALE SA-PREF A | ブラジル | 株式 | 素材 | 3.50 |
| 8 ULTRAPAR PARTICIPACOES-PREF | ブラジル | 株式 | エネルギー | 3.44 |
| 9 MARCOPOLO SA-PREF | ブラジル | 株式 | 資本財 | 3.37 |
| 10 DURATEX SA | ブラジル | 株式 | 素材 | 3.25 |

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

種類別および業種別組入比率

| 種類 | 業種 | 投資比率(%) |
|---------------------|------------|---------|
| 株式 | 運輸 | 20.92 |
| | 素材 | 19.22 |
| | 公益事業 | 13.81 |
| | 資本財 | 11.15 |
| | 食品・飲料・タバコ | 8.44 |
| | 耐久消費財・アパレル | 7.35 |
| | その他 | 14.42 |
| 現金・預金・その他の資産(負債控除後) | | 4.69 |
| 合計 | | 100.00 |

年間収益率の推移（暦年ベース）



(注1) ファンドの収益率は、税引き前収益分配金を分配時に再投資したものと計算しています。2010年は設定日(1月12日)から年末までの収益率です。2011年は1月末までの収益率です。

(注2) 当ファンドにはベンチマークはありません。

- ・ 運用実績等について、別途月次等で開示している場合があります。この場合、委託会社のホームページで閲覧することができます。
- ・ 運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。

第2【管理及び運営】

1【申込（販売）手続等】

(1) 申込期間と取扱時間

平成23年3月16日から平成24年3月15日までの各営業日です。

ただし、ニューヨークの銀行の休業日もしくはニューヨーク証券取引所およびサンパウロ証券取引所の休場日の場合には、お申込みできません。申込みの受付は原則として午後3時までとし、これら受付時間を過ぎてからの申込みは翌営業日の取扱いとなります。

(2) 受益権の申込み

取得申込みには、収益分配金の受取方法により、収益の分配時に収益分配金を受取るコース（以下「一般コース」といいます。販売会社により名称が異なる場合があります。以下同じ。）と、収益分配金が税引き後無手数料で再投資されるコース（以下「自動継続投資コース」といいます。販売会社により名称が異なる場合があります。以下同じ。）の2つのコースがあります。

申込単位は、販売会社が定める単位とします。

自動継続投資契約に基づいて収益分配金を再投資する場合は、1口の整数倍をもって取得のお申込みに応じます。

申込価額は、取得申込日の翌営業日の基準価額とします。

一般コースの場合、申込金額（申込価額に取得申込口数を乗じて得た金額）と合わせて申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税等に相当する金額をお支払いいただきます。

自動継続投資コースの場合、申込代金をご指定いただき、申込手数料および申込手数料にかかる消費税等に相当する金額を申込代金の中から差引かせていただきます。

ご購入代金のお支払いに関しては、販売会社までお問い合わせください。

取扱コースおよび申込単位は、販売会社によって異なります。詳しくは、販売会社までお問い合わせください。

（委託会社の照会先）

B N Yメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社

電話番号（代表）03-5288-6431（営業日の午前9時から午後5時まで）

ホームページ <http://www.bnymellonam.jp/>

当ファンドの受益権の帰属は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります。取得申込者は販売会社に、取得申込と同時にまたは予め当該取得申込者が受益権の振替を行うための振替機関等の口座を申出るものとし、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録が行われます。

販売会社は、当該取得申込の代金の支払いと引換えに、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録を行います。委託会社は、追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿へのあらたな記載または記録をするため社債、株式等の振替に関する法律（以下「社振法」といいます。）に定める事項の振替機関への通知を行います。振替機関等は、委託会社から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行います。受託会社は、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権にかかる信託を設定した旨の通知を行います。

(3) 取得申込みの中止

金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、委託会社は、受益権の取得申込みの受付けを中止すること、およびすでに受付けた取得申込みの受付けを取消することができます。

2【換金（解約）手続等】

(1) 換金（解約）の受付

受益者は、自己に帰属する受益権につき、販売会社が定める単位をもって、一部解約の実行を請求することができます。その場合、振替受益権をもって行うものとし、

委託会社は、上記の一部解約の実行の請求を受付けた場合には、この信託契約の一部を解約します。ただし、ニューヨークの銀行の休業日もしくはニューヨーク証券取引所およびサンパウロ証券取引所の休場日の場合には、一部解約の実行の請求を受付けないものとし、

一部解約の実行の請求の受付は、原則として午後3時までとし、これら受付時間を過ぎてからの申込みは翌営業日の取扱いとなります。

上記の一部解約の価額は、一部解約の実行の請求を受付けた日の翌営業日の基準価額とします。

なお、信託財産の資金管理を円滑に行うため、委託会社の判断により、大口のご換金の場合には制限を設けさせていただく場合があります。

販売会社の換金単位については、販売会社までお問い合わせください。

換金の請求を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求にかかるこの信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引換えに、当該一部解約にかかる受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定に従い当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

(2) 解約の手取額

受益者の手取額は、一部解約の価額から、解約にかかる税金を差引いた金額となります。解約代金は、解約の請求受付日から起算して6営業日目から販売会社の本・支店および営業所等で支払われます。

(3) 解約受付けの中止

金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、委託会社は、一部解約の実行の請求の受付を中止することおよびすでに受付けた一部解約の実行の請求の受付を取消することができます。その場合には、受益者は当該受付中止以前に行った当日の一部解約の請求を撤回できます。ただし、受益者がその一部解約の請求を撤回しない場合には、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日にその請求を受付けたものとして取扱います。買取りの有無ならびに手続きの詳細については、販売会社までお問い合わせください。

(4) 償還時の受取り額

償還価額は、信託終了時における信託財産の純資産総額を受益権口数で除した額です。受益者の受取金額は、償還価額から、償還にかかる税金を差引いた金額です。償還金は、信託終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として、信託終了日（信託終了日が休業日の場合には翌営業日））から起算して5営業日目までとします。）から販売会社の本・支店および営業所等で受益者に支払います。

3【資産管理等の概要】

(1)【資産の評価】

基準価額の算定

当ファンドの基準価額とは、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券および借入有価証券を除きます。）を法令および社団法人投資信託協会規則にしたがって時価または一部償却原価法により評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（以下「純資産総額」といいます。）を、計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。基準価額は便宜上、1万口当たりをもって表示されることがあります。

なお、外貨建資産の円換算については、原則として、わが国における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算します。また、予約為替の評価は、原則として、わが国における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によるものとします。

<参考> 主要投資対象の評価方法

| | |
|--------|---|
| 主要投資対象 | 原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、金融商品取引所における最終相場（最終相場のないものについては、それに準ずる価額）、または金融機関もしくは第一種金融商品取引業者等から提示される価額に基づいて評価しております。 |
|--------|---|

基準価額の算出と公表

基準価額（1万口当たり）は、毎営業日に算出され、販売会社または下記に問い合わせることにより知ることができるほか、翌日の日本経済新聞朝刊の証券欄「オープン基準価格」の紙面に「ブラ奇跡」として掲載されます。また、委託会社のホームページでご覧になることもできます。

（委託会社の照会先）

BNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社

電話番号（代表）03-5288-6431（営業日の午前9時から午後5時まで）

ホームページ <http://www.bnymellonam.jp/>

(2)【保管】

当ファンドの受益権の帰属は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まり、受益証券を発行しませんので、該当事項はありません。

(3)【信託期間】

当ファンドの信託期間は、無期限です。ただし、下記「(5) その他 ファンドの解約または償還条件等」に該当する場合には、信託は終了します。

(4)【計算期間】

当ファンドの計算期間は、原則として毎年6月16日から12月15日までおよび12月16日から翌年6月15日までとします。ただし、第1計算期間は、信託契約締結日（平成22年1月12日）から平成22年6月15日までとします。

なお、各計算期間終了日に該当する日（「該当日」といいます。）が休業日のとき、各計算期間終了日は該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。最終計算期間の終了日は、下記「(5) その他 ファンドの解約または償還条件等」に定める信託期間の終了日とします。

(5)【その他】

ファンドの解約または償還条件等

a. 信託契約の解約

1. 委託会社は、信託期間中において、この信託にかかる受益権の総口数が10億口を下回ることとなった場合、もしくはこの信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、またはや

むを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届出ます。

2. 委託会社は、上記1.の事項について、書面による決議（以下「書面決議」といいます。）を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに信託契約の解約の理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この信託契約にかかる知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を発送します。
 3. 書面決議において、受益者（委託会社およびこの信託の信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権にかかる受益者としての受託会社を除きます。）は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
 4. 書面決議は、議決権を行使することができる受益者の半数以上であって、当該受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。
 5. 上記2. から4. までの規定は、委託会社が信託契約の解約について提案をした場合において、当該提案につき、この信託契約にかかるすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。また、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、上記2. から4. までに規定するこの信託契約の解約の手続を行うことが困難な場合には適用しません。
- b. 監督官庁の命令等による信託契約の解約
- 委託会社は、次の事由が生じたときは、この信託契約を解約し信託を終了させます。
- ・委託会社が、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたとき
 - ・委託会社が、監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したとき
- ただし、監督官庁がこの信託契約に関する委託会社の業務を他の委託会社に引継ぐことを命じたときは、この信託は下記「信託約款の変更等 c.」の書面決議で否決された場合を除き、当該委託会社と受託会社との間において存続します。
- ・受託会社の辞任または解任に際し新受託会社を選任できないとき

信託約款の変更等

- a. 委託会社は、監督官庁より信託約款の変更の命令を受けたときは、その命令にしたがい、下記の規定にしたがって信託約款を変更します。また、受託会社が委託会社の承諾を受けてその任務を辞任した場合または裁判所が受託会社を解任した場合は、委託会社は下記c.以降の規定にしたがい、新受託会社を選任します。
- b. 委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託約款を変更することまたはこの信託と他の信託との併合（投資信託及び投資法人に関する法律第16条第2号に規定する「委託者指図型投資信託の併合」をいいます。）を行うことができるものとし、あらかじめ、変更または併合しようとする旨およびその内容を監督官庁に届出ます。なお、この信託約款は本規定に定める以外の方法によって変更することができないものとします。
- c. 委託会社は、上記a.およびb.の事項（上記b.の変更事項にあつては、その内容が重大なものに該当する場合に限る。以下、併合と合わせて「重大な約款の変更等」といいます。）について、書面決議を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに重大な約款の変更等の内容およびその理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この信託約款にかかる知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を発送します。
- d. 書面決議において、受益者（委託会社およびこの信託の信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権にかかる受益者としての受託会社を除きます。）は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
- e. 書面決議は、議決権を行使することができる受益者の半数以上であって、当該受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。
- f. 書面決議の効力は、この信託のすべての受益者に対してその効力を生じます。
- g. 上記c. からf. までの規定は、委託会社が重大な約款の変更等について提案をした場合において、当該提案につき、この信託約款にかかるすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。
- h. 上記b. からg. までの規定にかかわらず、この投資信託において併合の書面決議が可決された場合にあつても、当該併合にかかる一または複数の他の投資信託において当該併合の書面決議が否決された場合は、当該他の投資信託との併合を行うことはできません。

公告

委託会社が受益者に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。

その他の契約の変更

- a. 募集・販売契約

委託会社と販売会社との間の投資信託受益権の取扱い等に関する契約書は、当事者の別段の意思表示のない限り、原則として1年ごとに自動的に更新され、また当事者の合意により変更することができます。

b. 投資顧問契約

投資顧問契約は、当事者間の合意により変更することができます。投資顧問契約の終了または変更は、その内容が重大なものについて、上記「 信託約款の変更等」の規定にしたがって信託約款を変更します。

信託事務処理の再信託

受託会社は、当ファンドにかかる信託事務の処理の一部について日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社と再信託契約を締結し、これを委託することがあります。

信託業務の委託等

a. 受託会社は、委託会社と協議のうえ、信託業務の一部について、信託業法第22条第1項に定める信託業務の委託をするときは、以下に掲げる基準のすべてに適合するもの（受託会社の利害関係人を含みます。）を委託先として選定します。

1. 委託先の信用力に照らし、継続的に委託業務の遂行に懸念がないこと
2. 委託先の委託業務にかかる実績等に照らし、委託業務を確実に処理する能力があると認められること
3. 委託される信託財産に属する財産と自己の固有財産その他の財産とを区分する等の管理を行う体制が整備されていること
4. 内部管理に関する業務を適正に遂行するための体制が整備されていること

b. 受託会社は、上記 a. に定める委託先の選定にあたっては、当該委託先が上記 a. に掲げる基準に適合していることを確認するものとします。

c. 上記 a. および b. にかかわらず、受託会社は、下記1. から4. までに掲げる業務を、受託会社および委託会社が適当と認める者（受託会社の利害関係人を含みます。）に委託することができるものとします。

1. 信託財産の保存にかかる業務
2. 信託財産の性質を変えない範囲内において、その利用または改良を目的とする業務
3. 委託会社のみの方針により信託財産の処分およびその他の信託の目的の達成のために必要な行為にかかる業務
4. 受託会社が行う業務の遂行にとって補助的な機能を有する行為

委託会社の事業の譲渡および承継に伴う取扱い

a. 委託会社は、事業の全部または一部を譲渡することがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を譲渡することがあります。

b. 委託会社は、分割により事業の全部または一部を承継させることがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を承継させることがあります。

運用報告書の作成および交付

委託会社は、毎決算後および償還時に期中の運用経過、組入有価証券の内容および有価証券の売買状況などを記載した運用報告書を作成し、販売会社を通じて受益者に交付します。

4【受益者の権利等】

当ファンドの受益権は、その取得申込口数に応じて、取得申込者に帰属します。この受益権は、信託の日時を異にすることにより差異を生ずることはありません。

受益者の有する主な権利は次のとおりです。

(1) 収益分配金の請求権

受益者は、委託会社の決定した収益分配金を口数に応じて委託会社に請求する権利を有します。ただし、収益分配金の請求権は、支払開始日から5年間その支払を請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は委託会社に帰属します。

(2) 償還金の請求権

受益者は、償還金を持分にに応じて委託会社に請求する権利を有します。償還金は信託終了後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として、信託終了日（信託終了日が休業日の場合は翌営業日）から起算して5営業日目までとします。）から受益者に支払われます。償還金の請求権は、支払開始日から10年間その支払を請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は委託会社に帰属します。

償還金は、償還日において振替機関の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者としてとします。）に支払います。

(3) 換金（信託の一部解約の実行）請求権

受益者は、いつでも受益権の一部解約の実行により、委託会社に換金を請求することができます。

(4) 信託契約の解約または重大な約款の変更等に対する反対者の買取請求権

信託契約の解約または重大な約款の変更等を行う場合において、書面決議において当該解約または重大な約款の変更等に反対した受益者は、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって買取るべき旨を請求することができます。なお、この場合の受益権の買取価額は、公正な価格（当該受益権の解約価額に準じて計算された価額）とします。

(5) 帳簿閲覧権

受益者は、委託会社に対し、その営業時間内に当ファンドの信託財産に関する帳簿書類の閲覧または謄写を請求することができます。

第3【ファンドの経理状況】

- (1) 当ファンドの財務諸表は、第1期計算期間（平成22年1月12日から平成22年6月15日まで）及び第2期計算期間（平成22年6月16日から平成22年12月15日まで）について、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に掲記される科目その他の事項の金額については、円単位で表示しております。

- (2) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1期計算期間（平成22年1月12日から平成22年6月15日まで）及び第2期計算期間（平成22年6月16日から平成22年12月15日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による監査を受けております。

1【財務諸表】

B N Yメロン・ブラジル・インフラ・消費関連株式ファンド

(1)【貸借対照表】

(単位：円)

| | 第1期 (平成22年6月15日現在) | 第2期 (平成22年12月15日現在) |
|-----------------|-----------------------|------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 預金 | 862,019,788 | 732,010,917 |
| コール・ローン | 148,218,236 | 117,470,165 |
| 株式 | 19,073,985,245 | 8,314,465,991 |
| 派生商品評価勘定 | - | 151,173 |
| 未収配当金 | 20,897,021 | 33,365,665 |
| 未収利息 | 203 | 160 |
| 流動資産合計 | 20,105,120,493 | 9,197,464,071 |
| 資産合計 | 20,105,120,493 | 9,197,464,071 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 派生商品評価勘定 | 816,869 | 166,026 |
| 未払収益分配金 | - | 240,644,690 |
| 未払解約金 | 14,245,499 | 211,462,148 |
| 未払受託者報酬 | 5,747,307 | 5,418,142 |
| 未払委託者報酬 | 147,787,980 | 139,323,709 |
| その他未払費用 | 2,891,245 | 3,513,172 |
| 流動負債合計 | 171,488,900 | 600,527,887 |
| 負債合計 | 171,488,900 | 600,527,887 |
| 純資産の部 | | |
| 元本等 | | |
| 元本 | 22,596,203,787 | 8,594,453,242 |
| 剰余金 | | |
| 期末剰余金又は期末欠損金() | 2,662,572,194 | 2,482,942 |
| (分配準備積立金) | - | 198,594,611 |
| 元本等合計 | 19,933,631,593 | 8,596,936,184 |
| 純資産合計 | 19,933,631,593 | 8,596,936,184 |
| 負債純資産合計 | 20,105,120,493 | 9,197,464,071 |

（２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

| | 第1期 (自平成22年1月12日 至平成22年6月15日) | 第2期 (自平成22年6月16日 至平成22年12月15日) |
|---|-------------------------------------|--------------------------------------|
| 営業収益 | | |
| 受取配当金 | 170,377,584 | 149,885,614 |
| 受取利息 | 83,620 | 31,648 |
| 有価証券売買等損益 | 1,387,475,613 | 3,245,869,389 |
| 為替差損益 | 495,253,900 | 788,170,361 |
| 営業収益合計 | 1,712,268,309 | 2,607,616,290 |
| 営業費用 | | |
| 受託者報酬 | 5,747,307 | 5,418,142 |
| 委託者報酬 | 147,787,980 | 139,323,709 |
| その他費用 | 336,319,911 | 17,262,089 |
| 営業費用合計 | 489,855,198 | 162,003,940 |
| 営業利益又は営業損失（ ） | 2,202,123,507 | 2,445,612,350 |
| 経常利益又は経常損失（ ） | 2,202,123,507 | 2,445,612,350 |
| 当期純利益又は当期純損失（ ） | 2,202,123,507 | 2,445,612,350 |
| 一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ） | 43,163,489 | 1,200,302,665 |
| 期首剰余金又は期首欠損金（ ） | - | 2,662,572,194 |
| 剰余金増加額又は欠損金減少額 | 12,353,136 | 1,680,290,974 |
| 当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額 | 12,353,136 | 1,680,290,974 |
| 剰余金減少額又は欠損金増加額 | 515,965,312 | 19,900,833 |
| 当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額 | 515,965,312 | 19,900,833 |
| 分配金 | - | 240,644,690 |
| 期末剰余金又は期末欠損金（ ） | 2,662,572,194 | 2,482,942 |

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

| 項目 | 第1期 (自平成22年1月12日 至平成22年6月15日) | 第2期 (自平成22年6月16日 至平成22年12月15日) |
|----------------------------|---|---|
| 1. 有価証券の評価基準及び評価方法 | 株式 移動平均法に基づき、以下のとおり原則として時価で評価しております。 ・外国金融商品市場（以下「海外取引所」という）に上場されている株式 原則として海外取引所における計算期間末日に知りうる直近の最終相場で評価しております。 計算期間末日に当該取引所の最終相場がない場合には、当該取引所における直近の日の最終相場で評価しておりますが、直近の日の最終相場によることが適当でないと認められた場合には、委託会社が忠実義務に基づいて合理的事由をもって時価と認められた価額もしくは受託者と協議のうえ両者が合理的事由をもって時価と認められた価額で評価しております。 | 株式 同左 |
| 2. デリバティブの評価基準及び評価方法 | ・外国為替予約取引 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、計算期間末日において、わが国における対顧客先物売買相場の仲値を適用して計算しております。ただし、為替予約取引のうち対顧客先物売買相場が発表されていない通貨については、対顧客電信売買相場の仲値によって計算しております。 | ・外国為替予約取引 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、計算期間末日において、わが国における対顧客先物相場の仲値を適用して計算しております。ただし、為替予約取引のうち対顧客先物相場が発表されていない通貨については、対顧客相場の仲値によって計算しております。 |
| 3. 収益及び費用の計上基準 | ・受取配当金の計上基準 受取配当金は、原則として株式の配当金落ち日において、その金額が確定している場合には当該金額を計上し、未だ確定していない場合には入金日基準で計上しております。 | ・受取配当金の計上基準 同左 |
| 4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項 | (1) 外貨建取引の処理基準 「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)第60条及び第61条に基づいて処理しております。 (2) 第1期計算期間は、信託約款第42条により平成22年1月12日（設定日）から平成22年6月15日までとします。 | ・外貨建資産等の会計処理 「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)第60条及び第61条に基づいて処理しております。 |

(貸借対照表に関する注記)

| | 第1期 (平成22年6月15日現在) | 第2期 (平成22年12月15日現在) |
|---|-----------------------|------------------------|
| 1. 受益権の総数 | 22,596,203,787口 | 8,594,453,242口 |
| 2. 元本の欠損 「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)第55条の6第10号に規定する額 | 2,662,572,194円 | - |
| 3. 1口当たり純資産額 | 0.8822円 | 1.0003円 |

| | | |
|--------------|----------|-----------|
| (1万口当たり純資産額) | (8,822円) | (10,003円) |
|--------------|----------|-----------|

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

| 第1期 (自平成22年1月12日 至平成22年6月15日) | 第2期 (自平成22年6月16日 至平成22年12月15日) |
|--|--|
| 1. 信託財産の運用の指図に係る権限の全部又は一部を委託するために要する費用として委託者報酬の中から支弁している額 48,984,000円 | 1. 信託財産の運用の指図に係る権限の全部又は一部を委託するために要する費用として委託者報酬の中から支弁している額 46,441,252円 |
| 2. 分配金の計算過程 計算期末における信託約款に規定する収益調整金925,805円(1万口当たり0.40円)より、分配可能額は925,805円(1万口当たり0.40円)ですが、分配を行っておりません。 | 2. 分配金の計算過程 計算期末における費用控除後の配当等収益(101,857,624円)、有価証券売買等損益(337,381,677円)、信託約款に規定する収益調整金(579,990円)より、分配可能額は439,819,291円(1万口当たり511.74円)であり、うち240,644,690円(1万口当たり280円)を分配金額としております。 |

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

| | 第1期 (自平成22年1月12日 至平成22年6月15日) | 第2期 (自平成22年6月16日 至平成22年12月15日) |
|------------------------|---|--------------------------------------|
| 1. 金融商品に対する取組方針 | 当ファンドは、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品の運用をしております。 | 同左 |
| 2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク | 当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、デリバティブ取引、金銭債権・金銭債務であります。当ファンドが保有する有価証券の詳細は「(4) 附属明細表」に記載しております。これらは、有価証券の運用による信用リスク、市場リスク(為替リスク・金利リスク・価格変動リスク・流動性リスク)に晒されております。デリバティブ取引には、為替予約取引が含まれており、当ファンドはこれらのデリバティブ取引により決済不履行リスク及び市場リスク(為替リスク・金利リスク・価格変動リスク・流動性リスク)に晒されております。これらのデリバティブ取引は投資信託財産に属する資産の為替リスク及び価格変動リスクを回避する目的のみならず、効率的で長期的な運用に資する目的で用いられることもあります。 | 同左 |
| 3. 金融商品に係るリスク管理体制 | 委託会社においては投資リスク管理に関する委員会を設け、運用リスクの管理を行っております。コンプライアンス・リスク管理部門は運用リスクの管理において、信託約款等の遵守状況や、市場リスク及び信用リスク等のモニターを行い、その結果に基づき運用部門その他関連部署への是正勧告を行っております。 | 同左 |

| | | |
|------------------------|---|----|
| 4. 金融商品の時価等に関する事項の補足説明 | <p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価額がない場合には合理的に算定された価額が含まれています。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。</p> <p>また、「金融商品の時価等に関する事項」におけるデリバティブ取引に関する契約額等は、あくまでもデリバティブ取引における名目的な契約額または計算上の想定元本であり、当該金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。</p> | 同左 |
|------------------------|---|----|

金融商品の時価等に関する事項

| | 第1期 (自 平成22年 1月12日 至 平成22年 6月15日) | 第2期 (自 平成22年 6月16日 至 平成22年12月15日) |
|--------------------|---|--|
| 1. 貸借対照表計上額、時価及び差額 | 金融商品は時価または時価の近似値と考えられる帳簿価額で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との間に重要な差額ははありません。 | 同左 |
| 2. 時価の算定方法 | <p>(1) 株式 「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)」に記載しております。</p> <p>(2) 派生商品評価勘定 デリバティブ取引については、「(デリバティブ取引に関する注記)」に記載しております。</p> <p>(3) 金銭債権及び金銭債務 これらの科目は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。</p> | <p>(1) 株式 同左</p> <p>(2) 派生商品評価勘定 同左</p> <p>(3) 金銭債権及び金銭債務 同左</p> |

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

| | 第1期 (自 平成22年 1月12日 至 平成22年 6月15日) | 第2期 (自 平成22年 6月16日 至 平成22年12月15日) |
|-----|---|---|
| 種 類 | 当計算期間の損益に含まれた評価差額(円) | 当計算期間の損益に含まれた評価差額(円) |
| 株 式 | 1,204,996,163 | 1,547,243,433 |
| 合 計 | 1,204,996,163 | 1,547,243,433 |

(デリバティブ取引に関する注記)

(通貨関連)

| 区分 | 種類 | (平成22年6月15日現在) | | | |
|---------------|--------------|----------------|-------|-------------|---------|
| | | 契約額等(円) | | 時価(円) | 評価損益(円) |
| | | | うち1年超 | | |
| 市場取引 以外の取引 | 為替予約取引 買建 | 米ドル | - | 17,606,400 | 7,560 |
| | 売建 | 米ドル | - | 157,265,500 | 809,309 |
| | 合計 | - | - | - | 816,869 |

(注) 時価の算定方法

為替予約取引については以下のように評価しております。

1. 本書における計算期間末日に対顧客先物相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。

同期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で

評価しております。

同期間末日において当該日の対顧客先物相場が発表されていない場合は、以下の方法によっております。

- ・同期間末日に当該日を超える対顧客先物相場が発表されている場合には、発表されている先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの先物相場の仲値をもとに計算したレートを用いております。
 - ・同期間末日に当該日を超える対顧客先物相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客相場の仲値を用いております。
2. 同期間末日に対顧客先物相場の仲値が発表されていない外貨については、同期間末日の対顧客相場の仲値で評価しております。

上記取引でヘッジ会計が適用されているものではありません。

| 区分 | 種類 | (平成22年12月15日現在) | | | |
|---------------|---------------------|-----------------|-------|-------------|---------|
| | | 契約額等(円) | | 時価(円) | 評価損益(円) |
| | | | うち1年超 | | |
| 市場取引 以外の取引 | 為替予約取引 売建 米ドル | 790,847,867 | - | 790,862,720 | 14,853 |
| | 合計 | - | - | - | 14,853 |

(注) 時価の算定方法

為替予約取引については以下のように評価しております。

1. 本書における計算期間末日に対顧客先物相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。
 - 同期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しております。
 - 同期間末日において当該日の対顧客先物相場が発表されていない場合は、以下の方法によっております。
 - ・同期間末日に当該日を超える対顧客先物相場が発表されている場合には、発表されている先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの先物相場の仲値をもとに計算したレートを用いております。
 - ・同期間末日に当該日を超える対顧客先物相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客相場の仲値を用いております。
2. 同期間末日に対顧客先物相場の仲値が発表されていない外貨については、同期間末日の対顧客相場の仲値で評価しております。

上記取引でヘッジ会計が適用されているものではありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

第1期(自平成22年1月12日至平成22年6月15日)

該当事項はありません。

第2期(自平成22年6月16日至平成22年12月15日)

該当事項はありません。

(重要な後発事象に関する注記)

第1期(自平成22年1月12日至平成22年6月15日)

該当事項はありません。

第2期(自平成22年6月16日至平成22年12月15日)

該当事項はありません。

(その他の注記)

元本額の変動

| | 第1期 (平成22年6月15日現在) | 第2期 (平成22年12月15日現在) |
|-----------|-----------------------|------------------------|
| 期首元本額 | 16,145,776,888円 | 22,596,203,787円 |
| 期中追加設定元本額 | 7,201,394,010円 | 318,510,847円 |
| 期中一部解約元本額 | 750,967,111円 | 14,320,261,392円 |

(4) 【附属明細表】

第1 有価証券明細表(平成22年12月15日現在)

(イ) 株式

次表の通りです。

| 種類 | 通貨 | 銘柄名 | 株数 | 評価額 | | 備考 |
|----|-----|-----------------------------|--------|-------|--------------|----|
| | | | | 単価 | 金額 | |
| 株式 | 米ドル | CIA SIDERURGICA NACL-SP ADR | 84,200 | 16.96 | 1,428,032.00 | |

| | | | | | |
|-------------|------------------------------|---------|--------|-----------------|-----------------|
| | GERDAU SA -SPON ADR | 19,200 | 13.77 | 264,384.00 | |
| | VALE SA-SP PREF ADR | 63,700 | 30.26 | 1,927,562.00 | |
| | COMPANHIA DE BEBIDAS-PRF ADR | 16,900 | 142.95 | 2,415,855.00 | |
| | BRASIL TELECOM SA-ADR | 54,567 | 21.03 | 1,147,544.01 | |
| | CIA PARANAENSE ENER-SP ADR P | 91,600 | 24.42 | 2,236,872.00 | |
| 計 | 銘柄数：6 | | | 9,420,249.01 | |
| | 組入時価比率：9.2% | | | (789,887,879) | 9.5% |
| ブラジル リアル | PORTX OPERACOES PORT SA | 351,900 | 3.87 | 1,361,853.00 | |
| | OSX BRASIL SA | 2,900 | 536.00 | 1,554,400.00 | |
| | ULTRAPAR PARTICIPACOES-PREF | 55,200 | 104.90 | 5,790,480.00 | |
| | CONFAB INDUSTRIAL S.A.-PREF | 732,834 | 6.08 | 4,455,630.72 | |
| | DURATEX SA | 255,400 | 18.10 | 4,622,740.00 | |
| | GERDAU SA-PREF | 350,000 | 22.95 | 8,032,500.00 | |
| | METALURGICA GERDAU SA-PREF | 67,200 | 27.29 | 1,833,888.00 | |
| | USINAS SIDER MINAS GER-PF A | 51,500 | 19.57 | 1,007,855.00 | |
| | USINAS SIDERURGICAS DE MINAS | 70,400 | 22.85 | 1,608,640.00 | |
| | VALE SA-PREF A | 100,000 | 50.73 | 5,073,000.00 | |
| | IOCHPE-MAXION SA | 321,400 | 22.70 | 7,295,780.00 | |
| | MARCOPOLO SA-PREF | 979,700 | 7.10 | 6,955,870.00 | |
| | MILLS ESTRUTURAS E SERVICOS | 139,600 | 22.70 | 3,168,920.00 | |
| | RANDON PARTICIPACOES SA-PREF | 323,000 | 12.81 | 4,137,630.00 | |
| | ALL AMERICA LATINA LOGISTICA | 476,400 | 14.93 | 7,112,652.00 | |
| | CIA DE CONCESSOES RODOVIARIA | 252,300 | 43.78 | 11,045,694.00 | |
| | ECORODOVIAS INFRA E LOG SA | 411,800 | 12.95 | 5,332,810.00 | |
| | LOCALIZA RENT A CAR | 63,100 | 26.80 | 1,691,080.00 | |
| | OBRASCON HUARTE LAIN BRASIL | 154,400 | 59.50 | 9,186,800.00 | |
| | SANTOS BRASIL PARTICIPACOES | 245,400 | 23.00 | 5,644,200.00 | |
| | BROOKFIELD INCORPORACOES SA | 255,200 | 8.47 | 2,161,544.00 | |
| | CYRELA BRAZIL REALTY | 86,100 | 20.66 | 1,778,826.00 | |
| | EVEN CONSTRUTORA E INCORPORA | 242,900 | 8.70 | 2,113,230.00 | |
| | MRV ENGENHARIA | 130,500 | 16.37 | 2,136,285.00 | |
| | PDG REALTY SA | 393,300 | 9.85 | 3,874,005.00 | |
| | LOJAS AMERICANAS SA-PREF | 228,400 | 15.52 | 3,544,768.00 | |
| | LOJAS RENNER S.A. | 78,100 | 58.00 | 4,529,800.00 | |
| | BRF-BRASIL FOODS SA | 162,600 | 25.90 | 4,211,340.00 | |
| | MARFRIG ALIMENTOS SA | 230,700 | 13.95 | 3,218,265.00 | |
| | HYPERMARCAS S.A | 132,100 | 25.50 | 3,368,550.00 | |
| | TOTVS SA | 27,800 | 174.00 | 4,837,200.00 | |
| | CIA ENERGETICA DE SP-PREF B | 213,800 | 28.09 | 6,005,642.00 | |
| | CIA PARANAENSE DE ENERGIA | 60,100 | 38.10 | 2,289,810.00 | |
| | EDP - ENERGIAS DO BRASIL SA | 84,300 | 36.30 | 3,060,090.00 | |
| | LIGHT SA | 58,900 | 23.70 | 1,395,930.00 | |
| | MPX ENERGIA SA | 94,800 | 27.35 | 2,592,780.00 | |
| | TRACTEBEL ENERGIA SA | 148,900 | 27.15 | 4,042,635.00 | |
| 計 | 銘柄数：37 | | | 152,073,122.72 | |
| | 組入時価比率：87.5% | | | (7,524,578,112) | 90.5% |
| 合計 | | | | 8,314,465,991 | (8,314,465,991) |

外貨建有価証券明細表注記

1. 通貨種類毎の小計欄の（ ）内は、邦貨換算額であります。
2. 合計金額欄の（ ）内は、外貨建有価証券に係るもので、内書であります。
3. 比率は左より組入時価の純資産に対する比率及び有価証券合計金額に対する比率であります。

(口) 株式以外の有価証券

該当事項はありません。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

「(3) 注記表(デリバティブ取引に関する注記)」に記載しております。

2【ファンドの現況】

【純資産額計算書】

(平成23年1月31日現在)

| | |
|---------------------------------|---------------------|
| 資産総額 | 7,361,760,347円 |
| 負債総額 | 231,405,936円 |
| 純資産総額(-) | 7,130,354,411円 |
| 発行済数量 | 7,593,348,031口 |
| 1単位当たり純資産額(/) (1万口当たり純資産額) | 0.9390円 (9,390円) |

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

(1) 投資信託受益証券の名義書換等

該当事項はありません。

なお、受益者は、委託会社がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

(2) 受益者に対する特典

ありません。

(3) 受益権の譲渡

受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等に振替の申請をするものとします。

上記の申請のある場合には、上記の振替機関等は、当該譲渡にかかる譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定に従い、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。

上記の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めたとときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

(4) 受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

(5) 受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議のうえ、社振法に定めるところにしたがい、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

(6) 償還金

償還金は、原則として、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者に支払います。

(7) 質権口記載または記録の受益権の取扱について

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付、一部解約金および償還金の支払等については、信託約款の規定によるほか、民法その他の法令等に従って取扱われます。

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

(1) 資本金の額（平成23年2月末現在）

資本金 7億9,500万円

発行可能株式総数 20,000株

発行済株式総数 15,900株

最近5年間における主な資本金の額の増減

最近5年間における資本金の額の増減はありません。

(2) 委託会社の機構（平成23年2月末現在）

取締役会

3名以上の取締役が、株主総会において選任されます。取締役の選任は、発行済株式総数の過半数を有する株主が出席し、出席した株主の議決権の過半数の賛成をもってこれを行い、累積投票によらないものとします。

取締役の任期は、選任後1年以内の最終の決算期に関する定時株主総会の終結のときまでとし、増員または補欠によって選任された取締役の任期は、その他の取締役の残任期間と同一とします。

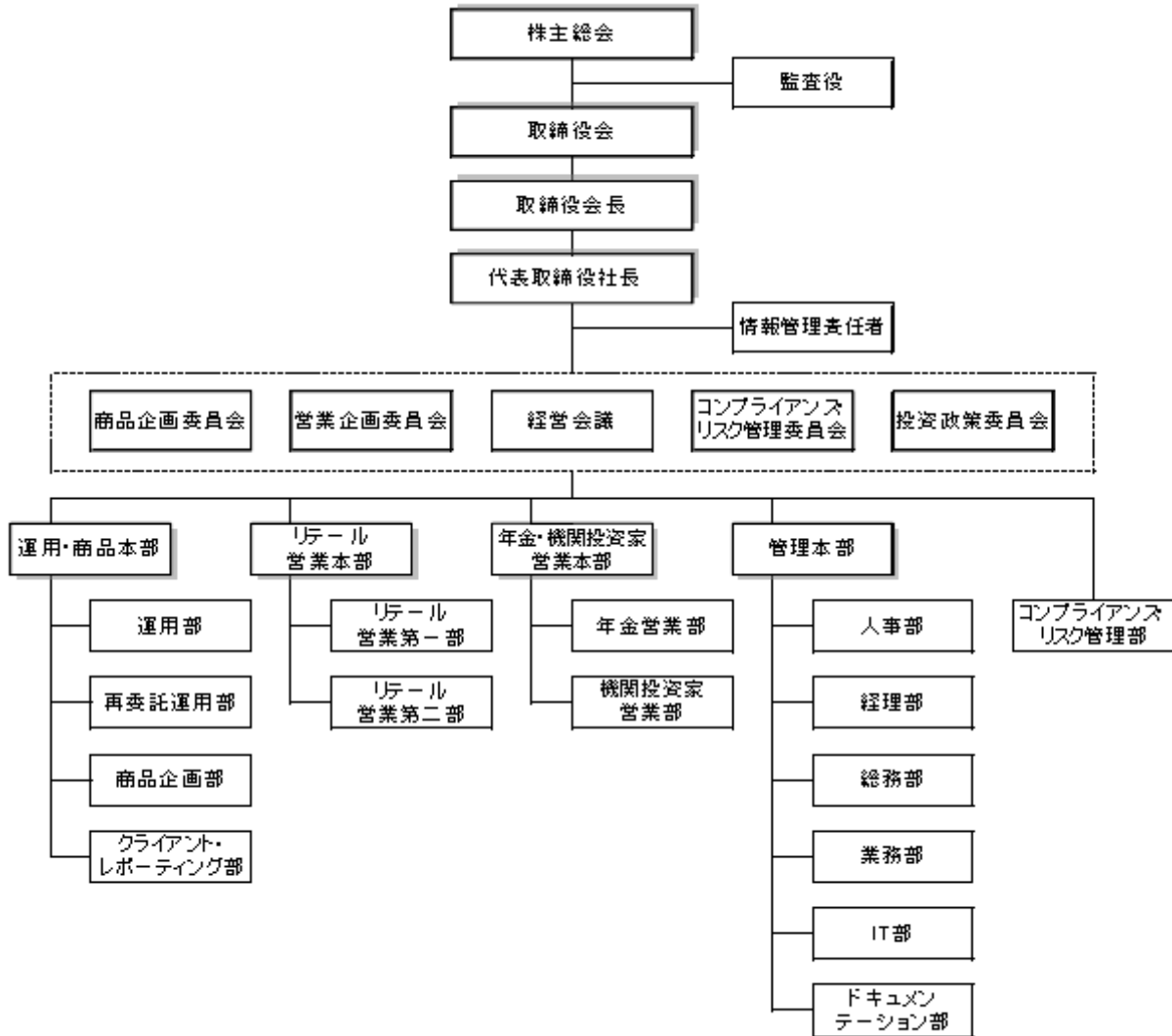
取締役会はその決議により、取締役中より代表取締役を選定し、取締役の中から役付取締役を選定することができます。

取締役会は、代表取締役が招集し、議長となります。代表取締役にさしつかえがあるときは、招集については管理担当取締役が、議長には、予め取締役会で定めた順序に従って他の取締役がこれにあたります。取締役会の招集通知は会日の一週間前までに発送します。また、取締役および監査役的全員の同意があるときは、特定の取締役会についてこの招集通知を省略し、またはこの招集期間を短縮することができます。

取締役会は、法令または定款に定める事項、その他当会社の重要な業務の執行について決定します。

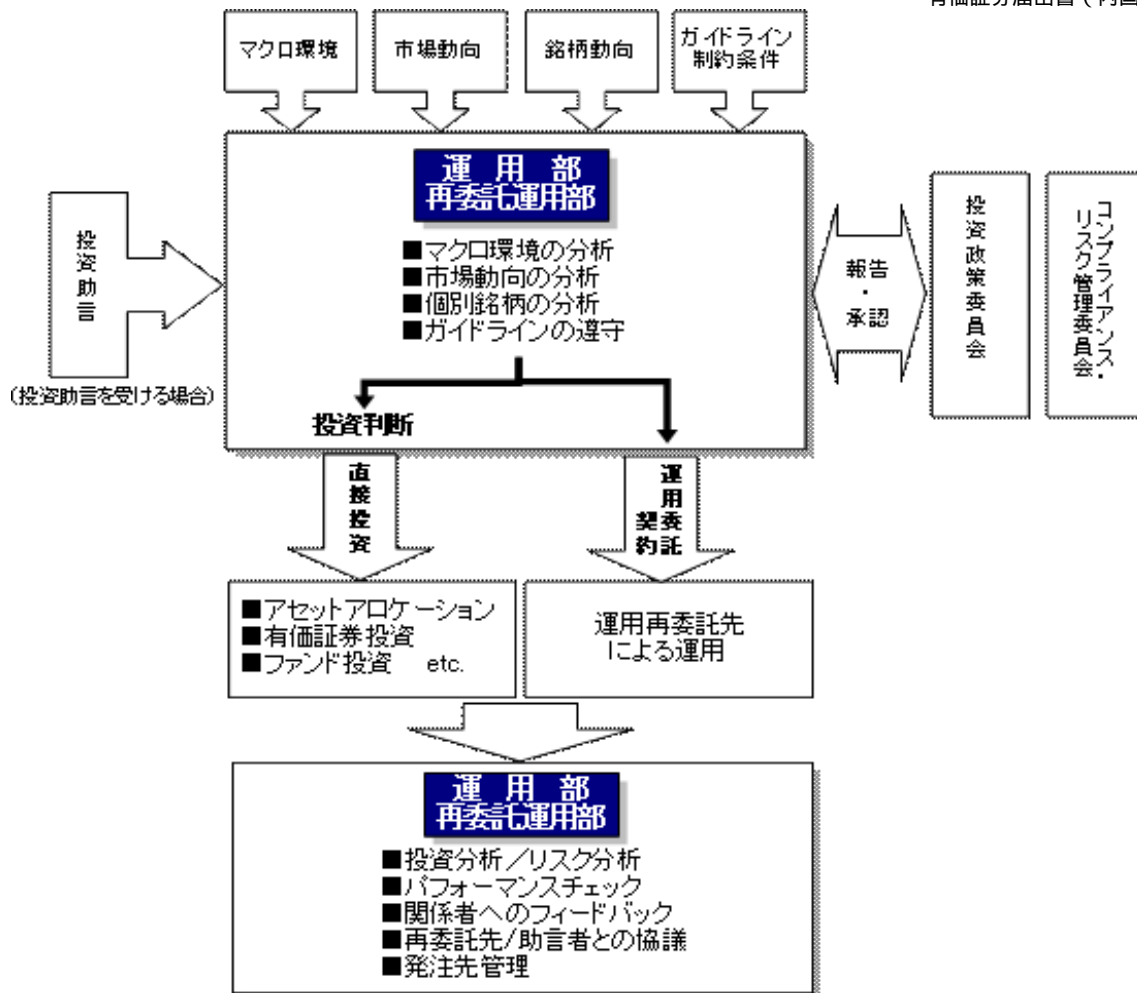
取締役会の議決は、取締役の過半数が出席し、その全員一致をもってこれを行います。

業務運営の組織



取締役会は、委託会社の業務執行に関する重要事項を決定します。代表取締役は、委託会社を代表し、全般の業務執行について統括します。取締役は、委嘱された業務の執行にあたり、監査役は、会計監査および業務監査を行います。

（注）上記は平成23年2月末現在のものであり、今後変更となる場合があります。
運用体制



- ・原則として毎月2回開催される投資政策委員会において、ファンドの運用ならびにファンドの運用の指図権限を委託している投資顧問会社の運用が、ファンドの投資基本方針、投資対象、投資制限および運用委託契約に沿う形で行われているか、遵守状況の確認等を行います。
 - ・B N Yメロン・グループ（「ザ・バンク・オブ・ニューヨーク・メロン・コーポレーション」の傘下にある運用会社等のグループ企業）のリサーチ力・運用ノウハウを活用します。
- （注）上記の運用体制は平成23年2月末現在のものであり、今後変更となる場合があります。

2【事業の内容及び営業の概況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。また「金融商品取引法」に定める投資助言業務及び第二種金融商品取引業を行っています。平成23年1月末現在、委託会社の運用する投資信託の本数、純資産額の合計は次のとおりです。（ただし、親投資信託を除きます。）

| ファンドの種類 | 本数 | 純資産額合計 (百万円) |
|------------|----|-----------------|
| 公募証券投資信託 | 14 | 98,258 |
| 追加型株式投資信託 | 9 | 87,027 |
| 追加型公社債投資信託 | 0 | 0 |
| 単位型株式投資信託 | 2 | 595 |
| 単位型公社債投資信託 | 3 | 636 |
| 私募証券投資信託 | 22 | 136,424 |
| 合計 | 36 | 234,682 |

3【委託会社等の経理状況】

(1) 年次財務諸表

1. 委託会社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号、以下「財務諸表等規則」という）第2条に基づき、同規則及び「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令 第52号）により作成しております。
また、財務諸表に記載している金額については、千円未満の端数を切り捨てにより表示しております。
2. 委託会社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前事業年度（自平成20年4月1日至平成21年3月31日）及び当事業年度（自平成21年4月1日至平成22年3月31日）の財務諸表について、あずさ監査法人により監査を受けております。

(2) 中間財務諸表

1. 委託会社の中間財務諸表は「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号、以下「中間財務諸表等規則」という）第38条及び第57条の規定に基づき、同規則及び「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日 内閣府令第52号）により作成しております。
また、中間財務諸表に記載している金額については、千円未満の端数を切り捨てにより表示しております。
2. 委託会社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当中間会計期間（自平成22年4月1日至平成22年9月30日）の中間財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による中間監査を受けております。

なお、従来から委託会社が監査証明を受けている、あずさ監査法人は監査法人の種類の変更により、平成22年7月1日をもって、有限責任 あずさ監査法人となりました。

(1) 【貸借対照表】

(単位：千円)

| | 前事業年度 (平成21年3月31日) | 当事業年度 (平成22年3月31日) |
|-----------|-----------------------|-----------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金・預金 | 5,536,934 | 4,966,234 |
| 未収委託者報酬 | 177,903 | 280,181 |
| 未収運用受託報酬 | *3 665,332 | 1,274,895 |
| 未収収益 | 44,578 | 30,771 |
| 未収還付法人税等 | 144,167 | - |
| 前払費用 | 35,134 | 53,095 |
| 仮払金 | 6,663 | 25,149 |
| 繰延税金資産 | 33,546 | 75,559 |
| 流動資産計 | 6,644,261 | 6,705,887 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物 | *1 77,120 | 63,794 |
| 器具備品 | *1 51,471 | 38,297 |
| リース資産 | *1 3,915 | 3,105 |
| 有形固定資産計 | 132,506 | 105,197 |
| 無形固定資産 | | |
| ソフトウェア | *2 27,786 | 23,326 |
| 電話加入権 | 228 | 228 |
| 無形固定資産計 | 28,015 | 23,555 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 269,879 | 1,582,278 |
| 長期差入保証金 | 140,003 | 136,531 |
| 預託金 | 75 | 75 |
| 繰延税金資産 | 54,555 | 71,720 |
| 投資その他の資産計 | 464,513 | 1,790,605 |
| 固定資産計 | 625,035 | 1,919,358 |
| 資産合計 | 7,269,297 | 8,625,245 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 未払金 | 17,151 | 30,028 |
| 未払費用 | 667,350 | 1,138,637 |
| 預り金 | 5,140 | 6,034 |
| 仮受金 | 11,739 | 10,111 |
| 未払法人税等 | - | 266,717 |
| 未払消費税等 | 23,046 | 9,261 |
| 賞与引当金 | 101,935 | 124,967 |
| リース債務 | 850 | 850 |
| 流動負債計 | 827,214 | 1,586,608 |
| 固定負債 | | |
| 退職給付引当金 | 82,371 | 128,084 |
| 役員退職慰労引当金 | 21,583 | 30,455 |
| リース債務 | 3,260 | 2,409 |
| 固定負債計 | 107,215 | 160,949 |
| 負債合計 | 934,429 | 1,747,557 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 795,000 | 795,000 |
| 資本剰余金 | | |
| 資本準備金 | 695,000 | 695,000 |
| 資本剰余金計 | 695,000 | 695,000 |
| 利益剰余金 | | |
| その他利益剰余金 | | |
| 繰越利益剰余金 | 4,862,732 | 5,398,198 |
| 利益剰余金計 | 4,862,732 | 5,398,198 |
| 株主資本計 | 6,352,732 | 6,888,198 |
| 評価・換算差額等 | | |

| | | |
|--------------|-----------|-----------|
| その他有価証券評価差額金 | 17,864 | 10,510 |
| 評価・換算差額等計 | 17,864 | 10,510 |
| 純資産合計 | 6,334,868 | 6,877,687 |
| 負債・純資産合計 | 7,269,297 | 8,625,245 |

(2) 【損益計算書】

(単位：千円)

| | 前事業年度 (自 平成20年4月 1日 至 平成21年3月31日) | 当事業年度 (自 平成21年4月 1日 至 平成22年3月31日) |
|--------------|---|---|
| 営業収益 | | |
| 委託者報酬 | 3,326,877 | 2,591,900 |
| 運用受託報酬 | 3,587,588 | 4,108,302 |
| その他営業収益 | 241,872 | 122,168 |
| 営業収益計 | 7,156,338 | 6,822,371 |
| 営業費用 | | |
| 支払手数料 | 724,318 | 601,106 |
| 広告宣伝費 | 33,562 | 64,888 |
| 公告費 | 1,156 | 1,060 |
| 調査費 | 3,367,261 | 3,421,291 |
| 委託計算費 | 55,598 | 37,953 |
| 通信費 | 11,363 | 12,000 |
| 印刷費 | 19,760 | 18,370 |
| 協会費 | 11,107 | 7,036 |
| その他の営業雑経費 | 7,346 | 5,584 |
| 営業費用計 | 4,231,475 | 4,169,291 |
| 一般管理費 | | |
| 役員報酬 | 111,143 | 104,678 |
| 給与・手当 | 795,234 | 750,181 |
| 賞与 | 4,600 | - |
| 交際費 | 4,573 | 2,993 |
| 旅費交通費 | 37,280 | 39,063 |
| 租税公課 | 18,715 | 22,107 |
| 不動産賃借料 | 121,935 | 116,473 |
| 固定資産減価償却費 | 44,553 | 36,883 |
| 賞与引当金繰入額 | 291,925 | 367,178 |
| 退職給付費用 | 64,028 | 69,914 |
| 役員退職慰労引当金繰入額 | 4,449 | 8,872 |
| 退職金 | 15,150 | - |
| 諸経費 | 169,224 | 157,655 |
| 一般管理費計 | 1,682,815 | 1,676,002 |
| 営業利益 | 1,242,047 | 977,078 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 5,673 | 883 |
| 為替差益 | 1,056 | - |
| その他 | 181 | 6,714 |
| 営業外収益計 | 6,911 | 7,597 |
| 営業外費用 | | |
| 為替差損 | - | 222 |
| 営業外費用計 | - | 222 |
| 経常利益 | 1,248,959 | 984,452 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | 725 | 77 |
| 特別損失計 | 725 | 77 |
| 税引前当期純利益 | 1,248,233 | 984,375 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 508,890 | 513,115 |
| 法人税等調整額 | 41,677 | 64,205 |
| 法人税等合計 | 550,568 | 448,909 |
| 当期純利益 | 697,665 | 535,465 |

(3) 【株主資本等変動計算書】

| | 前事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日) | 当事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日) |
|---------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 株主資本 | | |
| 資本金 | | |
| 前期末残高 | 795,000 | 795,000 |
| 当期変動額 | | |
| 当期変動額合計 | - | - |
| 当期末残高 | 795,000 | 795,000 |
| 資本剰余金 | | |
| 資本準備金 | | |
| 前期末残高 | 695,000 | 695,000 |
| 当期変動額 | | |
| 当期変動額合計 | - | - |
| 当期末残高 | 695,000 | 695,000 |
| 利益剰余金 | | |
| その他利益剰余金 | | |
| 繰越利益剰余金 | | |
| 前期末残高 | 4,165,067 | 4,862,732 |
| 当期変動額 | | |
| 当期純利益 | 697,665 | 535,465 |
| 当期変動額合計 | 697,665 | 535,465 |
| 当期末残高 | 4,862,732 | 5,398,198 |
| 株主資本合計 | | |
| 前期末残高 | 5,655,067 | 6,352,732 |
| 当期変動額 | | |
| 当期純利益 | 697,665 | 535,465 |
| 当期変動額合計 | 697,665 | 535,465 |
| 当期末残高 | 6,352,732 | 6,888,198 |
| 評価・換算差額等 | | |
| 前期末残高 | 4,352 | 17,864 |
| 当期変動額 | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | 13,512 | 7,353 |
| 当期変動額合計 | 13,512 | 7,353 |
| 当期末残高 | 17,864 | 10,510 |
| 純資産合計 | | |
| 前期末残高 | 5,650,714 | 6,334,868 |
| 当期変動額 | | |
| 当期純利益 | 697,665 | 535,465 |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | 13,512 | 7,353 |
| 当期変動額合計 | 684,154 | 542,819 |
| 当期末残高 | 6,334,868 | 6,877,687 |

重要な会計方針

| 期別 項目 | 前事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日) | 当事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日) |
|--------------------|--|--------------------------------------|
| 1. 有価証券の評価基準及び評価方法 | (1) その他有価証券時価のあるもの 期末日の市場価格等に基づく時価法 (評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定) | (1) その他有価証券時価のあるもの 同左 |

| | | |
|-----------------------|--|---|
| 2. 固定資産の減価償却の方法 | <p>(1) 有形固定資産（リース資産を除く）平成19年3月31日以前に取得したものの旧定率法によっております。平成19年4月1日以降に取得したものの定率法によっております。なお、主な耐用年数は以下の通りです。 建物 5年～22年 器具備品 3年～20年</p> <p>また、平成19年3月31日以前に取得したものについては、従来の償却可能限度額まで償却が終了した翌年から5年間で均等償却する方法によっております。</p> <p>(2) 無形固定資産 定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。</p> <p>(3) リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうちリース取引開始日が平成20年3月31日以前に開始する事業年度に属するもの及び個々のリース資産で重要性が乏しいと認められるものについては、通常の賃貸借取引に準じた会計処理によっております。</p> | <p>(1) 有形固定資産（リース資産を除く） 同 左</p> <p>(2) 無形固定資産 同 左</p> <p>(3) リース資産 同 左</p> |
| 3. 引当金の計上基準 | <p>(1) 賞与引当金 従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給対象期間に応じた支給見込額を計上しております。</p> <p>(2) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務の見込額に基づき、期末において発生していると認められる額を計上しております。</p> <p>(3) 役員退職慰労引当金 将来の役員退職慰労金の支出に備えるため、当社内規に基づく期末要支給額を計上しております。</p> | <p>(1) 賞与引当金 同 左</p> <p>(2) 退職給付引当金 同 左</p> <p>(3) 役員退職慰労引当金 同 左</p> |
| 4. その他財務諸表作成のための重要な事項 | 消費税等の会計処理 消費税等の会計処理は税抜方式によっております。 | 消費税等の会計処理 同 左 |

会計方針の変更

| | |
|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 前事業年度 （自平成20年4月 1日 至平成21年3月31日） | 当事業年度 （自平成21年4月 1日 至平成22年3月31日） |
|---------------------------------------|---------------------------------------|

| | |
|--|---|
| <p style="text-align: center;">リース取引に関する会計基準</p> <p>所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、当事業年度より「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号（平成5年6月17日（企業会計審議会第一部会）、平成19年3月30日改正））及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第16号（平成6年1月18日（日本公認会計士協会 会計制度委員会）、平成19年3月30日改正））が適用されたことに伴い、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> <p>なお、リース取引開始日が適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を適用しております。</p> | - |
|--|---|

注記事項

（貸借対照表関係）

| 前事業年度 （平成21年3月31日現在） | 当事業年度 （平成22年3月31日現在） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-------------------------|----------|------|----------|-------|-------|--------|----------|----------|-----------|---|-----|----------|------|----------|-------|-------|--------|----------|----------|-----------|
| <p>*1 有形固定資産の減価償却累計額は以下のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">建 物</td> <td style="text-align: right;">34,287千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">器具備品</td> <td style="text-align: right;">75,048千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">リース資産</td> <td style="text-align: right;">135千円</td> </tr> </table> <p>*2 無形固定資産の減価償却累計額は以下のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">ソフトウェア</td> <td style="text-align: right;">12,977千円</td> </tr> </table> <p>*3 関係会社に対する資産及び負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">未収運用受託報酬</td> <td style="text-align: right;">264,340千円</td> </tr> </table> | 建 物 | 34,287千円 | 器具備品 | 75,048千円 | リース資産 | 135千円 | ソフトウェア | 12,977千円 | 未収運用受託報酬 | 264,340千円 | <p>*1 有形固定資産の減価償却累計額は以下のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">建 物</td> <td style="text-align: right;">47,613千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">器具備品</td> <td style="text-align: right;">89,683千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">リース資産</td> <td style="text-align: right;">945千円</td> </tr> </table> <p>*2 無形固定資産の減価償却累計額は以下のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">ソフトウェア</td> <td style="text-align: right;">20,937千円</td> </tr> </table> <p>*3 関係会社に対する資産及び負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">未収運用受託報酬</td> <td style="text-align: right;">590,302千円</td> </tr> </table> | 建 物 | 47,613千円 | 器具備品 | 89,683千円 | リース資産 | 945千円 | ソフトウェア | 20,937千円 | 未収運用受託報酬 | 590,302千円 |
| 建 物 | 34,287千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 器具備品 | 75,048千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| リース資産 | 135千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ソフトウェア | 12,977千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 未収運用受託報酬 | 264,340千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 建 物 | 47,613千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 器具備品 | 89,683千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| リース資産 | 945千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ソフトウェア | 20,937千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 未収運用受託報酬 | 590,302千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

（損益計算書関係）

| 前事業年度 （自平成20年4月 1日 至平成21年3月31日） | 当事業年度 （自平成21年4月 1日 至平成22年3月31日） | | | | | | | | |
|--|---------------------------------------|--------------|-----|-------------|--------|-------------|--|--------|-------------|
| <p>*1 役員報酬の限度額は以下のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">取締役</td> <td style="text-align: right;">年額 300,000千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">監査役</td> <td style="text-align: right;">年額 20,000千円</td> </tr> </table> <p>*2 関係会社との取引</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">運用受託報酬</td> <td style="text-align: right;">1,409,477千円</td> </tr> </table> | 取締役 | 年額 300,000千円 | 監査役 | 年額 20,000千円 | 運用受託報酬 | 1,409,477千円 | <p>*1 同 左</p> <p>*2 関係会社との取引</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">運用受託報酬</td> <td style="text-align: right;">2,019,405千円</td> </tr> </table> | 運用受託報酬 | 2,019,405千円 |
| 取締役 | 年額 300,000千円 | | | | | | | | |
| 監査役 | 年額 20,000千円 | | | | | | | | |
| 運用受託報酬 | 1,409,477千円 | | | | | | | | |
| 運用受託報酬 | 2,019,405千円 | | | | | | | | |

（株主資本等変動計算書関係）

前事業年度（自平成20年4月1日 至平成21年3月31日）

発行済株式総数に関する事項

| 株式の種類 | 前事業年度末 | 増 加 | 減 少 | 当事業年度末 |
|-------------|--------|-----|-----|--------|
| 普通株式 （株） | 15,900 | - | - | 15,900 |

当事業年度（自平成21年4月1日 至平成22年3月31日）

発行済株式総数に関する事項

| 株式の種類 | 前事業年度末 | 増 加 | 減 少 | 当事業年度末 |
|-------|--------|-----|-----|--------|
| 株式の種類 | 前事業年度末 | 増 加 | 減 少 | 当事業年度末 |

| | | | | |
|-------------|--------|---|---|--------|
| 普通株式 (株) | 15,900 | - | - | 15,900 |
|-------------|--------|---|---|--------|

(リース取引関係)

| 前事業年度 (自平成20年4月 1日 至平成21年3月31日) | 当事業年度 (自平成21年4月 1日 至平成22年3月31日) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|--------------|------------|---------|--------|--------|------------|--------|--------|---------|--------|--------|------|---------|-----|---------|----|----------|-----------|---------|-------------|---------|---|--|--------------|------------|---------|--------|--------|------------|--------|--------|---------|-------|-------|------|---------|-----|---------|----|---------|-----------|---------|-------------|---------|
| <p>1. リース取引に関する会計基準適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引で、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を適用しているもの</p> <p>(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>器具備品 (千円)</th> <th>合計 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>取得価額相当額</td> <td>24,924</td> <td>24,924</td> </tr> <tr> <td>減価償却累計額相当額</td> <td>10,483</td> <td>10,483</td> </tr> <tr> <td>期末残高相当額</td> <td>14,440</td> <td>14,440</td> </tr> </tbody> </table> <p>なお、取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。</p> <p>(2) 未経過リース料の期末残高相当額</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>1年以内</td> <td>4,985千円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td>9,455千円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>14,440千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>なお、未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込法により算定しております。</p> <p>(3) 支払リース料及び減価償却費相当額</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>1. 支払リース料</td> <td>4,984千円</td> </tr> <tr> <td>2. 減価償却費相当額</td> <td>4,984千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>(4) 減価償却費相当額の算定法 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。</p> | | 器具備品 (千円) | 合計 (千円) | 取得価額相当額 | 24,924 | 24,924 | 減価償却累計額相当額 | 10,483 | 10,483 | 期末残高相当額 | 14,440 | 14,440 | 1年以内 | 4,985千円 | 1年超 | 9,455千円 | 合計 | 14,440千円 | 1. 支払リース料 | 4,984千円 | 2. 減価償却費相当額 | 4,984千円 | <p>1. リース取引に関する会計基準適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引で、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を適用しているもの</p> <p>(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>器具備品 (千円)</th> <th>合計 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>取得価額相当額</td> <td>23,259</td> <td>23,259</td> </tr> <tr> <td>減価償却累計額相当額</td> <td>14,838</td> <td>14,838</td> </tr> <tr> <td>期末残高相当額</td> <td>8,420</td> <td>8,420</td> </tr> </tbody> </table> <p>同 左</p> <p>(2) 未経過リース料の期末残高相当額</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>1年以内</td> <td>4,091千円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td>4,329千円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>8,420千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>同 左</p> <p>(3) 支払リース料及び減価償却費相当額</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>1. 支払リース料</td> <td>4,444千円</td> </tr> <tr> <td>2. 減価償却費相当額</td> <td>4,444千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>(4) 減価償却費相当額の算定法 同 左</p> | | 器具備品 (千円) | 合計 (千円) | 取得価額相当額 | 23,259 | 23,259 | 減価償却累計額相当額 | 14,838 | 14,838 | 期末残高相当額 | 8,420 | 8,420 | 1年以内 | 4,091千円 | 1年超 | 4,329千円 | 合計 | 8,420千円 | 1. 支払リース料 | 4,444千円 | 2. 減価償却費相当額 | 4,444千円 |
| | 器具備品 (千円) | 合計 (千円) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 取得価額相当額 | 24,924 | 24,924 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 減価償却累計額相当額 | 10,483 | 10,483 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 期末残高相当額 | 14,440 | 14,440 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1年以内 | 4,985千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1年超 | 9,455千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 14,440千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1. 支払リース料 | 4,984千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 減価償却費相当額 | 4,984千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 器具備品 (千円) | 合計 (千円) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 取得価額相当額 | 23,259 | 23,259 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 減価償却累計額相当額 | 14,838 | 14,838 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 期末残高相当額 | 8,420 | 8,420 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1年以内 | 4,091千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1年超 | 4,329千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 8,420千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1. 支払リース料 | 4,444千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 減価償却費相当額 | 4,444千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>2. ファイナンス・リース取引</p> <p>(1) リース資産の内容 有形固定資産 コピー機</p> <p>(2) リース資産の減価償却方法 重要な会計方針「2. 固定資産の減価償却方法」に記載のとおりであります。</p> | <p>2. ファイナンス・リース取引</p> <p>(1) リース資産の内容 同 左</p> <p>(2) リース資産の減価償却方法 同 左</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 3. オペレーティング・リース取引 | 3. オペレーティング・リース取引 |
|------------------------------------|------------------------------------|
| オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料 | オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料 |
| 1年以内 113,998千円 | 1年以内 113,998千円 |
| 1年超 199,497千円 | 1年超 85,499千円 |
| 合計 313,496千円 | 合計 199,497千円 |

（金融商品関係）

当事業年度（平成22年3月31日現在）

（追加情報）

当事業年度より、「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 平成20年3月10日）及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 平成20年3月10日）を適用しております。

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は投資信託及び投資助言業務を行っています。これらの事業により生じる営業債権である未収委託者報酬、未収運用受託報酬、未収収益の管理はきわめて重要であると認識しております。

事業推進目的のために自社設定の投資信託への投資を行っており、これらの運用方針につきましては取締役会へ報告を行い、管理しております。

これらの業務により生じた余剰資金の運用については、短期的な預金等の安全性の高い金融資産に限定しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である未収委託者報酬、未収運用受託報酬、未収収益は、顧客の信用リスクに晒されております。また、外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されております。投資有価証券は当社設定の投資信託に対するシードマネーであり、市場価格の変動リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスクの管理（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

営業債権については、主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

市場リスク（為替や金利等の変動リスクの管理）

投資有価証券については、時価を定期的に把握しております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払を実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告に基づき経理部が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変更することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成22年3月31日における貸借対照表上計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

（単位：千円）

| | 貸借対照表上計上額 | 時価 | 差額 |
|-----------------------|-----------|-----------|-----|
| (1)現金・預金 | 4,966,234 | 4,966,234 | - |
| (2)未収委託者報酬 | 280,181 | 280,181 | - |
| (3)未収運用受託報酬 | 1,274,895 | 1,274,895 | - |
| (4)未収収益 | 30,771 | 30,771 | - |
| (5)長期差入保証金 | 136,531 | 135,957 | 573 |
| (6)投資有価証券 その他の有価証券 | 1,582,278 | 1,582,278 | - |
| 資産計 | 8,270,892 | 8,270,319 | 573 |

| | | | |
|---------|-----------|-----------|---|
| (1)未払費用 | 1,138,637 | 1,138,637 | - |
| 負債計 | 1,138,637 | 1,138,637 | - |

(注1) 金融商品の時価の算定方法ならびに有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金・預金

預金はすべて短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 未収委託者報酬、未収運用受託報酬、未収収益

短期で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によっております。

(3) 長期差入保証金

長期差入保証金については、貸借期間に渡り無リスク利率で割り引いた金額を時価としております。

(4) 投資有価証券

これらの時価について、投資信託については、公表されている基準価格によっております。

負 債

(1) 未払費用

短期で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によっております。

(注2) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

| | 1年以内 (千円) | 1年超 5年以内 (千円) | 5年超 10年以内 (千円) | 10年超 (千円) |
|----------|--------------|---------------------|----------------------|--------------|
| 現金・預金 | 4,966,234 | | | |
| 未収委託者報酬 | 280,181 | | | |
| 未収運用受託報酬 | 1,274,895 | | | |
| 未収収益 | 30,771 | | | |
| 長期差入保証金 | | 136,531 | | |
| 合 計 | 6,552,083 | 136,531 | | |

(有価証券関係)

前事業年度（平成21年3月31日現在）

その他有価証券で時価のあるもの

（単位：千円）

| 区 分 | 取得原価 | 貸借対照表計上額 | 差 額 |
|------------|---------|----------|--------|
| 証券投資信託受益証券 | 300,000 | 269,879 | 30,120 |
| 計 | 300,000 | 269,879 | 30,120 |

当事業年度（平成22年3月31日現在）

その他有価証券で時価のあるもの

（単位：千円）

| 区 分 | 取得原価 | 貸借対照表計上額 | 差 額 |
|------------|-----------|-----------|--------|
| 証券投資信託受益証券 | 1,600,000 | 1,582,278 | 17,721 |
| 計 | 1,600,000 | 1,582,278 | 17,721 |

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

| | |
|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 前事業年度 (自平成20年4月 1日 至平成21年3月31日) | 当事業年度 (自平成21年4月 1日 至平成22年3月31日) |
|---------------------------------------|---------------------------------------|

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|-----------|----------|------|------|---------|----------|------|----------|------------------|----------|--|--------|-----------|------|------|---------|-----------|------|----------|------------------|----------|
| <p>(1) 採用している退職給付制度の概要</p> <p>当社の従業員は、退職一時金制度と平成18年12月1日より新たに設けました企業型年金規約に基づく確定拠出年金制度に加入しております。当該従業員に係る退職給付費用を当社は負担しており、当該負担額を費用処理しております。</p> <p>(2) 退職給付債務およびその内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">退職給付債務</td> <td style="text-align: right;">82,371千円</td> </tr> <tr> <td>年金資産</td> <td style="text-align: right;">- 千円</td> </tr> <tr> <td>退職給付引当金</td> <td style="text-align: right;">82,371千円</td> </tr> </table> <p>(3) 退職給付費用の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">勤務費用</td> <td style="text-align: right;">44,768千円</td> </tr> <tr> <td>確定拠出年金制度に基づく要拠出額</td> <td style="text-align: right;">19,260千円</td> </tr> </table> <p>(4) 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項</p> <p>当社は従業員が300人未満のため、在籍者の期末支給額を退職給付債務とする簡便法を採用しております。</p> | 退職給付債務 | 82,371千円 | 年金資産 | - 千円 | 退職給付引当金 | 82,371千円 | 勤務費用 | 44,768千円 | 確定拠出年金制度に基づく要拠出額 | 19,260千円 | <p>(1) 採用している退職給付制度の概要</p> <p>同 左</p> <p>(2) 退職給付債務およびその内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">退職給付債務</td> <td style="text-align: right;">128,084千円</td> </tr> <tr> <td>年金資産</td> <td style="text-align: right;">- 千円</td> </tr> <tr> <td>退職給付引当金</td> <td style="text-align: right;">128,084千円</td> </tr> </table> <p>(3) 退職給付費用の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">勤務費用</td> <td style="text-align: right;">51,283千円</td> </tr> <tr> <td>確定拠出年金制度に基づく要拠出額</td> <td style="text-align: right;">18,630千円</td> </tr> </table> <p>(4) 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項</p> <p>同 左</p> | 退職給付債務 | 128,084千円 | 年金資産 | - 千円 | 退職給付引当金 | 128,084千円 | 勤務費用 | 51,283千円 | 確定拠出年金制度に基づく要拠出額 | 18,630千円 |
| 退職給付債務 | 82,371千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 年金資産 | - 千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 退職給付引当金 | 82,371千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 勤務費用 | 44,768千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 確定拠出年金制度に基づく要拠出額 | 19,260千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 退職給付債務 | 128,084千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 年金資産 | - 千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 退職給付引当金 | 128,084千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 勤務費用 | 51,283千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 確定拠出年金制度に基づく要拠出額 | 18,630千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

(税効果会計関係)

| 前事業年度 (平成21年3月31日) | 当事業年度 (平成22年3月31日) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|-----------------------|-------|-------|--------|----------|--------|---------|-------|----------|-------|-----------|--------|---------|--------|-----------|-------|--------|--------|----------|--------|--------|------|------|--|--------|-----|------|-----|-------|-----|-----|-----|-------------------|------|--|--------|-------|-------|-------|-----------|--------|-------|--------|----------|--------|---------|--------|-----------|--------|--------|-------|----------|--------|--------|------|------|--|--------|-----|------|-----|-------|-----|-----|-----|-------------------|------|
| <p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p style="text-align: right;">(単位：千円)</p> <p>流動</p> <p>(繰延税金資産)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">未払費用否認</td> <td style="text-align: right;">1,246</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金</td> <td style="text-align: right;">41,762</td> </tr> <tr> <td>繰延税金資産合計</td> <td style="text-align: right;">43,008</td> </tr> </table> <p>(繰延税金負債)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">未収還付事業税</td> <td style="text-align: right;">9,462</td> </tr> <tr> <td>繰延税金負債合計</td> <td style="text-align: right;">9,462</td> </tr> <tr> <td>繰延税金資産の純額</td> <td style="text-align: right;">33,546</td> </tr> </table> <p>固定</p> <p>(繰延税金資産)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">退職給付引当金</td> <td style="text-align: right;">33,516</td> </tr> <tr> <td>役員退職慰労引当金</td> <td style="text-align: right;">8,782</td> </tr> <tr> <td>投資有価証券</td> <td style="text-align: right;">12,256</td> </tr> <tr> <td>繰延税金資産合計</td> <td style="text-align: right;">54,555</td> </tr> </table> <p>2. 法定実効税率と税効果適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳</p> <p style="text-align: right;">(%)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">法定実効税率</td> <td style="text-align: right;">40.7</td> </tr> <tr> <td>(調整)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>住民税均等割</td> <td style="text-align: right;">0.1</td> </tr> <tr> <td>役員賞与</td> <td style="text-align: right;">3.1</td> </tr> <tr> <td>交際費否認</td> <td style="text-align: right;">0.1</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">0.1</td> </tr> <tr> <td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td> <td style="text-align: right;">44.1</td> </tr> </table> | 未払費用否認 | 1,246 | 賞与引当金 | 41,762 | 繰延税金資産合計 | 43,008 | 未収還付事業税 | 9,462 | 繰延税金負債合計 | 9,462 | 繰延税金資産の純額 | 33,546 | 退職給付引当金 | 33,516 | 役員退職慰労引当金 | 8,782 | 投資有価証券 | 12,256 | 繰延税金資産合計 | 54,555 | 法定実効税率 | 40.7 | (調整) | | 住民税均等割 | 0.1 | 役員賞与 | 3.1 | 交際費否認 | 0.1 | その他 | 0.1 | 税効果会計適用後の法人税等の負担率 | 44.1 | <p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p style="text-align: right;">(単位：千円)</p> <p>流動</p> <p>(繰延税金資産)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">未払費用否認</td> <td style="text-align: right;">3,872</td> </tr> <tr> <td>未払事業税</td> <td style="text-align: right;">9,743</td> </tr> <tr> <td>未払地方法人特別税</td> <td style="text-align: right;">11,094</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金</td> <td style="text-align: right;">50,849</td> </tr> <tr> <td>繰延税金資産合計</td> <td style="text-align: right;">75,559</td> </tr> </table> <p>固定</p> <p>(繰延税金資産)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">退職給付引当金</td> <td style="text-align: right;">52,117</td> </tr> <tr> <td>役員退職慰労引当金</td> <td style="text-align: right;">12,392</td> </tr> <tr> <td>投資有価証券</td> <td style="text-align: right;">7,210</td> </tr> <tr> <td>繰延税金資産合計</td> <td style="text-align: right;">71,720</td> </tr> </table> <p>2. 法定実効税率と税効果適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳</p> <p style="text-align: right;">(%)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">法定実効税率</td> <td style="text-align: right;">40.7</td> </tr> <tr> <td>(調整)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>住民税均等割</td> <td style="text-align: right;">0.2</td> </tr> <tr> <td>役員賞与</td> <td style="text-align: right;">4.4</td> </tr> <tr> <td>交際費否認</td> <td style="text-align: right;">0.1</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">0.2</td> </tr> <tr> <td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td> <td style="text-align: right;">45.6</td> </tr> </table> | 未払費用否認 | 3,872 | 未払事業税 | 9,743 | 未払地方法人特別税 | 11,094 | 賞与引当金 | 50,849 | 繰延税金資産合計 | 75,559 | 退職給付引当金 | 52,117 | 役員退職慰労引当金 | 12,392 | 投資有価証券 | 7,210 | 繰延税金資産合計 | 71,720 | 法定実効税率 | 40.7 | (調整) | | 住民税均等割 | 0.2 | 役員賞与 | 4.4 | 交際費否認 | 0.1 | その他 | 0.2 | 税効果会計適用後の法人税等の負担率 | 45.6 |
| 未払費用否認 | 1,246 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 賞与引当金 | 41,762 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 繰延税金資産合計 | 43,008 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 未収還付事業税 | 9,462 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 繰延税金負債合計 | 9,462 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 繰延税金資産の純額 | 33,546 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 退職給付引当金 | 33,516 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 役員退職慰労引当金 | 8,782 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 投資有価証券 | 12,256 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 繰延税金資産合計 | 54,555 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 法定実効税率 | 40.7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (調整) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 住民税均等割 | 0.1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 役員賞与 | 3.1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 交際費否認 | 0.1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| その他 | 0.1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 税効果会計適用後の法人税等の負担率 | 44.1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 未払費用否認 | 3,872 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 未払事業税 | 9,743 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 未払地方法人特別税 | 11,094 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 賞与引当金 | 50,849 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 繰延税金資産合計 | 75,559 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 退職給付引当金 | 52,117 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 役員退職慰労引当金 | 12,392 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 投資有価証券 | 7,210 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 繰延税金資産合計 | 71,720 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 法定実効税率 | 40.7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (調整) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 住民税均等割 | 0.2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 役員賞与 | 4.4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 交際費否認 | 0.1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| その他 | 0.2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 税効果会計適用後の法人税等の負担率 | 45.6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

(持分法損益等)

該当事項はありません。

(関連当事者との取引)

前事業年度（自平成20年4月1日 至平成21年3月31日）

(1) 親会社及び法人主要株主等

| 種類 | 会社等の名称 | 所在地 | 資本金 又は 出資金 (百万) | 事業の 内容 | 議決権等 の所有 (被所有) の割合 | 関連当事者 との関係 | 取引の内容 | 取引金額 (千円) | 科目 | 期末残高 (千円) |
|-----|---|------------|--------------------------|------------|-----------------------------|---------------|----------------------------|--------------|--------------|--------------|
| 親会社 | BNYメロン・アセット・マネジメント・インターナショナル・ホールディングズ・リミテッド | 英国 ロンドン | \$31.30 | 資産運用 業務 | (被所有) 間接100% | サービス 提供 | 投資一任契約 に係る取引の 収入(注1) | 1,409,477 | 未収運用 受託報酬 | 264,340 |

(2) 兄弟会社等

| 種類 | 会社等の名称 | 所在地 | 資本金 又は 出資金 (百万) | 事業の 内容 | 議決権等 の所有 (被所有) の割合 | 関連当事者 との関係 | 取引の内容 | 取引金額 (千円) | 科目 | 期末残高 (千円) |
|---------|--|------------------|--------------------------|------------|-----------------------------|---------------|--------------------------------|--------------|--------------|--------------|
| 親会社の子会社 | メロン・キャピタル・マネジメント・コーポレーション | 米国 サンフランシスコ | \$297.68 | 資産運用 業務 | なし | サービス 提供 | 投資一任 契約に係る 取引の支払 (注1) | 1,769,779 | 未払費用 | 319,140 |
| 親会社の子会社 | BNYメロン・インターナショナル・マネジメント・リミテッド (旧会社名 メロン・インターナショナル・インベストメント・コーポレーション) | 米国 ケイマン 諸島 | \$0.00 | 資産運用 業務 | なし | サービス 提供 | 投資一任 契約に係る 取引の収入 (注1) | 1,818,376 | 未収運用 受託報酬 | 303,847 |

1. 関連当事者との取引

(注1) 独立第三者間取引と同様の一般的な取引条件で行っています。

2. 親会社に関する注記

B N Yメロン・アセット・マネジメント・インターナショナル・ホールディングズ・リミテッド（非上場）

(関連当事者との取引)

当事業年度（自平成21年4月1日 至平成22年3月31日）

(1) 親会社及び法人主要株主等

| 種類 | 会社等の名称 | 所在地 | 資本金 又は 出資金 (百万) | 事業の 内容 | 議決権等 の所有 (被所有) の割合 | 関連当事者 との関係 | 取引の内容 | 取引金額 (千円) | 科目 | 期末残高 (千円) |
|-----|---|------------|--------------------------|------------|-----------------------------|---------------|----------------------------|--------------|--------------|--------------|
| 親会社 | ビーエヌワイ・メロン・アセット・マネジメント・インターナショナル・ホールディングズ・リミテッド | 英国 ロンドン | \$121.43 | 資産運用 業務 | (被所有) 間接100% | サービス 提供 | 投資一任契約 に係る取引の 収入(注1) | 2,019,405 | 未収運用 受託報酬 | 590,302 |

(2) 兄弟会社等

| 種類 | 会社等の名称 | 住所 | 資本金 又は 出資金 (百万) | 事業の 内容 | 議決権等 の所有 (被所有) 割合 | 関連当事者 との関係 | 取引の内容 | 取引金額 (千円) | 科目 | 期末残高 (千円) |
|---------|-------------------------------|------------------|--------------------------|------------|----------------------------|---------------|----------------------------|--------------|--------------|--------------|
| 親会社の子会社 | BNYメロン・インターナショナル・マネジメント・リミテッド | 米国 ケイマン 諸島 | \$31.30 | 資産運用 業務 | なし | サービス 提供 | 投資一任契約 に係る取引の 収入(注1) | 1,174,717 | 未収運用 受託報酬 | 292,561 |

| | | | | | | | | | | |
|---------|--------------------------------|----------------|------------|------------|----|------------|----------------------------|-----------|------|-----------|
| 親会社の子会社 | ニュートン・インベストメント・マネジメント・リミテッド | 英国 ロンドン | \$248.00 | 資産運用 業務 | なし | サービス 提供 | 投資一任契約 に係る取引の 支払（注1） | 152,750 | 未払費用 | 167,980 |
| 親会社の子会社 | メロン・キャピタル・マネジメント・コーポレーション | 米国 サンフランシスコ | \$297.68 | 資産運用 業務 | なし | サービス 提供 | 投資一任契約 に係る取引の 支払（注1） | 1,255,613 | 未払費用 | 288,959 |
| 親会社の子会社 | スタンディッシュ・メロン・アセット・マネジメント・カンパニー | 米国 ボストン | \$287.45 | 資産運用 業務 | なし | サービス 提供 | 投資一任契約 に係る取引の 支払（注1） | 273,634 | 未払費用 | 82,939 |
| 親会社の子会社 | ニューヨークメロン銀行東京支店 | 日本 東京 | \$1,135.00 | 商業銀行 | なし | サービス 提供 | - | - | 預金 | 2,390,622 |
| 親会社の子会社 | ウォルター・スコット・アンド・パートナーズ・リミテッド | 英国 エジンバラ | 0.02 | 資産運用 業務 | なし | サービス 提供 | 営業費用 （調査費） | 289,546 | 未払費用 | 162,312 |

1. 関連当事者との取引

（注1）独立第三者間取引と同様の一般的な取引条件で行っています。

2. 親会社に関する注記

B N Yメロン・アセット・マネジメント・インターナショナル・ホールディングズ・リミテッド（非上場）

（1株当たり情報）

| 前事業年度 （自平成20年4月 1日 至平成21年3月31日） | 当事業年度 （自平成21年4月 1日 至平成22年3月31日） |
|---|--|
| 1株当たり純資産額 398,419円38銭 1株当たり当期純利益 43,878円33銭 | 1株当たり純資産額 432,558円97銭 1株当たり当期純利益 33,677円08銭 |
| なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在していないため、記述しておりません。 | 同 左 |

（注）1株当たり当期純利益の算定上の基礎は以下のとおりであります。

| 項 目 | 前事業年度 （自平成20年4月 1日 至平成21年3月31日） | 当事業年度 （自平成21年4月 1日 至平成22年3月31日） |
|------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 当期純利益（千円） | 697,665 | 534,465 |
| 普通株式に係る当期純利益（千円） | 697,665 | 534,465 |
| 期中平均株式数 | 15,900 | 15,900 |

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

[次へ](#)

(中間財務諸表)

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

| | | 当中間会計期間末 (平成22年9月30日) |
|--------------|----|--------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金・預金 | | 5,105,764 |
| 未収委託者報酬 | | 301,325 |
| 未収運用受託報酬 | | 1,767,435 |
| 未収収益 | | 65,056 |
| 前払費用 | | 48,099 |
| 仮払金 | | 5,908 |
| 繰延税金資産 | | 153,307 |
| 流動資産計 | | 7,446,897 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物 | *1 | 67,010 |
| 器具備品 | *1 | 35,267 |
| リース資産 | *1 | 2,700 |
| 有形固定資産計 | | 104,978 |
| 無形固定資産 | | |
| ソフトウェア | *2 | 21,359 |
| 電話加入権 | | 228 |
| 無形固定資産計 | | 21,588 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | | 1,309,370 |
| 長期差入保証金 | | 136,531 |
| 預託金 | | 75 |
| 繰延税金資産 | | 87,234 |
| 投資その他の資産計 | | 1,533,210 |
| 固定資産計 | | 1,659,777 |
| 資産合計 | | 9,106,675 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 未払金 | | 54,452 |
| 未払費用 | | 1,139,024 |
| 預り金 | | 5,428 |
| 未払法人税等 | | 252,030 |
| 未払消費税等 | *3 | 12,218 |
| 仮受金 | | 11,456 |
| 賞与引当金 | | 322,401 |
| リース債務 | | 850 |
| 流動負債計 | | 1,797,863 |
| 固定負債 | | |
| 役員退職慰労引当金 | | 28,722 |
| 退職給付引当金 | | 146,937 |
| 資産除去債務 | | 57,073 |
| リース債務 | | 1,984 |
| 固定負債計 | | 234,718 |
| 負債合計 | | 2,032,581 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | | 795,000 |
| 資本剰余金 | | |
| 資本準備金 | | 695,000 |
| 資本剰余金計 | | 695,000 |
| 利益剰余金 | | |
| その他利益剰余金 | | |
| 繰越利益剰余金 | | 5,578,536 |

| | |
|--------------|---------------------|
| 利益剰余金計 | 有価証券届出書(内国投資信託受益証券) |
| 株主資本計 | 5,578,536 |
| 評価・換算差額等 | 7,068,536 |
| その他有価証券評価差額金 | 5,557 |
| 評価・換算差額等計 | 5,557 |
| 純資産合計 | 7,074,094 |
| 負債・純資産合計 | 9,106,675 |

(2) 中間損益計算書

(単位：千円)

| | | 当中間会計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日) |
|--------------------|----|--|
| 営業収益 | | |
| 委託者報酬 | | 1,534,748 |
| 運用受託報酬 | | 2,070,195 |
| その他営業収益 | | 85,420 |
| 営業収益計 | | 3,690,364 |
| 営業費用 | | 2,379,837 |
| 営業費用計 | | 2,379,837 |
| 一般管理費 | *1 | 939,454 |
| 営業利益 | | 371,072 |
| 営業外収益 | | 7,720 |
| 営業外費用 | | 16,019 |
| 経常利益 | | 362,773 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | | 1,282 |
| 資産除去債務会計基準適用に伴う影響額 | | 38,858 |
| 税引前中間純利益 | | 322,633 |
| 法人税、住民税及び事業税 | | 246,580 |
| 法人税等調整額 | | 104,285 |
| 中間純利益 | | 180,338 |

(3) 中間株主資本等変動計算書

(単位：千円)

| | | 当中間会計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日) |
|-----------|--|--|
| 株主資本 | | |
| 資本金 | | |
| 前期末残高 | | 795,000 |
| 当中間期末残高 | | 795,000 |
| 資本剰余金 | | |
| 資本準備金 | | |
| 前期末残高 | | 695,000 |
| 当中間期末残高 | | 695,000 |
| 利益剰余金 | | |
| その他利益剰余金 | | |
| 繰越利益剰余金 | | |
| 前期末残高 | | 5,398,198 |
| 当中間期変動額 | | |
| 中間純利益 | | 180,338 |
| 当中間期変動額合計 | | 180,338 |
| 当中間期末残高 | | 5,578,536 |

| | |
|-----------------|-----------|
| 株主資本合計 | |
| 前期末残高 | 6,888,198 |
| 当中間期変動額 | |
| 中間純利益 | 180,338 |
| 当中間期変動額合計 | 180,338 |
| 当中間期末残高 | 7,068,536 |
| 評価・換算差額等 | |
| 前期末残高 | 10,510 |
| 当中間期変動額 | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額 | 16,068 |
| 当中間期変動額合計 | 16,068 |
| 当中間期末残高 | 5,557 |
| 純資産合計 | |
| 前期末残高 | 6,877,687 |
| 当中間期変動額 | |
| 中間純利益 | 180,338 |
| 株主資本以外の項目の当期変動額 | 16,068 |
| 当中間期変動額合計 | 196,406 |
| 当中間期末残高 | 7,074,094 |

中間財務諸表作成の基本となる重要な事項

| 期 別 | 当中間会計期間 (自平成22年4月 1日 至平成22年9月30日) |
|--------------------|--|
| 項 目 | |
| 1. 有価証券の評価基準及び評価方法 | (1) 有価証券の評価基準及び評価方法 その他有価証券 時価のあるもの 中間決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定) |

| | |
|------------------------------|--|
| 2. 固定資産の減価償却の方法 | <p>(1) 有形固定資産(リース資産を除く) 平成19年3月31日以前に取得したものは旧定率法によっております。 平成19年4月1日以降に取得したものは定率法によっております。 なお、主な耐用年数は以下の通りです。 建物 2年 器具備品 3年～20年</p> <p>また、平成19年3月31日以前に取得したのものについては従来の償却可能限度額まで償却が終了した翌年から5年間で均等償却する方法によっております。</p> <p>(2) 無形固定資産 定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。</p> <p>(3) リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。 所有権移転外ファイナンス・リース取引のうちリース取引開始日が平成20年3月31日以前に開始する事業年度に属するもの及び個々のリース資産で重要性が乏しいと認められるものについては、通常の賃貸借取引に準じた会計処理によっております。</p> |
| 3. 引当金の計上基準 | <p>(1) 賞与引当金 従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額の当中間会計期間負担額を計上しております。</p> <p>(2) 役員退職慰労引当金 将来の役員退職慰労金の支給に備えるため、当社内規に基づく当中間会計期間末要支給額を計上しております。</p> <p>(3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。</p> |
| 4. その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項 | 消費税等の会計処理 消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。 |

中間財務諸表作成の基本となる重要な事項の変更

| 期 別 項 目 | 当中間会計期間 (自平成22年4月 1日 至平成22年9月30日) |
|------------|--|
| 会計方針の変更 | <p>(資産除去債務に関する会計基準の適用) 当中間会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。 これにより、営業利益、経常利益はそれぞれ5,985千円、税引前中間純利益は44,843千円減少しております。</p> |

追加情報

| 期 別 | 当中間会計期間 (自平成22年4月 1日 至平成22年9月30日) |
|------|---|
| 項 目 | |
| 追加情報 | 平成23年10月予定の本社移転に伴い、主として本社建物について耐用年数の短縮を行っております。これにより、当中間会計期間の営業利益、経常利益及び税引前中間純利益がそれぞれ3,254千円減少しております。 |

注記事項

(中間貸借対照表関係)

| 当中間会計期間末 (平成22年9月30日現在) | |
|---|----------|
| *1. 有形固定資産の減価償却累計額は以下のとおりであります。 | |
| 建 物 | 62,271千円 |
| 器具備品 | 84,894千円 |
| リース資産 | 1,350千円 |
| *2. 無形固定資産の減価償却累計額は以下のとおりであります。 | |
| ソフトウェア | 25,041千円 |
| *3. 消費税等の扱い | |
| 仮払消費税等及び仮受消費税等は、相殺のうえ、流動負債の「未払消費税等」として表示しております。 | |

(中間損益計算書関係)

| 当中間会計期間 (自平成22年4月 1日 至平成22年9月30日) | |
|---|----------|
| *1. 減価償却実施額は以下のとおりであります。 | |
| 有形固定資産 | 21,042千円 |
| 無形固定資産 | 4,104千円 |

(中間株主資本等変動計算書関係)

当中間会計期間

(自平成22年4月 1日 至平成22年9月30日)

発行済株式の種類及び総数に関する事項

| | 前事業年度末 株式数 (株) | 当中間会計期間 増加株式数 (株) | 当中間会計期間 減少株式数 (株) | 当中間会計期間末 株式数 (株) |
|---------------|-------------------|----------------------|----------------------|---------------------|
| 発行済株式 普通株式 | 15,900 | - | - | 15,900 |

(リース取引関係)

| 当中間会計期間 (自平成22年4月 1日 至平成22年9月30日) | | | |
|---|-------------|----------------|---------------|
| 1. リース取引に関する会計基準適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引で、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を適用しているもの | | | |
| (1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び中間期末残高相当額 | | | |
| | 取得価額 相当額 | 減価償却累計額 相当額 | 中間期末残高 相当額 |
| 器 具 備 品 | 23,259千円 | 17,060千円 | 6,198千円 |
| 合 計 | 23,259千円 | 17,060千円 | 6,198千円 |
| なお、取得価額相当額は、未経過リース料中間期末残高が有形固定資産の中間期末残高等に占める割合が低いいため、支払利子込み法により算定しております。 | | | |

(2) 未経過リース料の中間期末残高相当額

| | |
|------|---------|
| 1年以内 | 3,560千円 |
| 1年超 | 2,637千円 |
| 合計 | 6,198千円 |

なお、未経過リース料中間期末残高相当額は、未経過リース料中間期末残高が有形固定資産の中間期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

(3) 支払リース料及び減価償却費相当額

| | |
|----------|---------|
| 支払リース料 | 2,222千円 |
| 減価償却費相当額 | 2,222千円 |

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

2. 所有権移転外ファイナンス・リース取引で、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理を適用しているもの

(1) リース資産の内容

有形固定資産
コピー機

(2) リース資産の減価償却方法

重要な会計方針「2. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

3. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

| | |
|------|------------|
| 1年以内 | 121,179 千円 |
| 1年超 | 31,794 千円 |

(金融商品関係)

当中間会計期間末（平成22年9月30日現在）

1. 金融商品の時価等に関する事項

平成22年9月30日における中間貸借対照表上計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

（単位：千円）

| | 貸借対照表上計上額 | 時価 | 差額 |
|-----------------------|-----------|-----------|----|
| (1)現金・預金 | 5,105,764 | 5,105,764 | - |
| (2)未収委託者報酬 | 301,325 | 301,325 | - |
| (3)未収運用受託報酬 | 1,767,435 | 1,767,435 | - |
| (4)未収収益 | 65,056 | 65,056 | - |
| (5)長期差入保証金 | 136,531 | 136,531 | - |
| (6)投資有価証券 その他の有価証券 | 1,309,370 | 1,309,370 | - |
| 資産計 | 8,685,483 | 8,685,483 | - |
| (1)未払費用 | 1,139,024 | 1,139,024 | - |
| 負債計 | 1,139,024 | 1,139,024 | - |

（注1）金融商品の時価の算定方法ならびに有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金・預金

預金はすべて短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 未収委託者報酬、未収運用受託報酬、未収収益

短期で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によっております。

(3) 長期差入保証金

長期差入保証金については、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

これらの時価について、投資信託については、公表されている基準価格によっております。

負債

(1) 未払費用

短期で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によっております。

(有価証券関係)

当中間会計期間末（平成22年9月30日現在）

その他有価証券で時価のあるもの

（単位：千円）

| 区分 | 取得原価 | 中間貸借対照表計上額 | 差額 |
|------------|-----------|------------|-------|
| 証券投資信託受益証券 | 1,300,000 | 1,309,370 | 9,370 |
| 計 | 1,300,000 | 1,309,370 | 9,370 |

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(持分法損益等)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

当社は定期建物賃貸借契約に基づき使用するオフィスについて、退去時における原状回復義務を負っているため、資産除去債務を計上しております。資産除去債務の見積りにあたり、契約期間は平成19年1月1日から平成23年12月31日までの5年間ですが、平成23年10月に本社移転を予定しているため、使用見込期間を58ヶ月、割引率は1.2%を採用しております。

資産除去債務のうち中間貸借対照表に計上しているもの

当中間会計期間における当該資産除去債務の総額の増減

| | |
|------------|-----------|
| 期首残高（注） | 56,732 千円 |
| 時の経過による調整額 | 341 千円 |
| 当中間会計期間末残高 | 57,073 千円 |

(注) 当中間会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しているため、前事業年度の末日における残高に代えて、当中間会計期間の期首における残高を記載しております。

(賃貸等不動産関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

セグメント情報

当中間会計期間（自平成22年4月1日 至平成22年9月30日）

当社の報告セグメントは、「投資運用業」という単一セグメントであるため、記載を省略しております。

関連情報

当中間会計期間（自平成22年4月1日 至平成22年9月30日）

1. 製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

| | 委託者報酬 | 運用受託報酬 | その他営業収益 | 合計 |
|-----------|-----------|-----------|---------|-----------|
| 外部顧客への売上高 | 1,534,748 | 2,070,195 | 85,420 | 3,690,364 |

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

（単位：千円）

| 日本 | ヨーロッパ | アメリカ | その他 | 合計 |
|-----------|-----------|---------|--------|-----------|
| 2,011,540 | 1,054,773 | 609,378 | 14,672 | 3,690,364 |

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

| 顧客の名称又は氏名 | 売上高 | 関連するセグメント名 |
|--------------------------------------|-----------|------------|
| B N Yメロン・インターナショナル・マネジメント・リミテッド | 1,047,272 | 投資運用業 |
| B N Yメロン・アセット・マネジメント・インターナショナル・リミテッド | 556,107 | 投資運用業 |

(1株当たり情報)

| 当中間会計期間 (自平成22年4月 1日 至平成22年9月30日) | |
|---|-------------|
| 1株当たり純資産額 | 444,919円59銭 |
| 1株当たり中間純利益額 | 11,342円05銭 |

(注)

1. 潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
2. 1株当たり中間純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| 当中間会計期間 (自平成22年4月 1日 至平成22年9月30日) | |
|---|-----------|
| 中間純利益 | 180,338千円 |
| 普通株主に帰属しない金額 | - 千円 |
| 普通株式に係る中間純利益 | 180,338千円 |
| 期中平均株式数 | 15,900 株 |

(重要な後発事項)

該当事項はありません。

4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

- (1) 自己又はその取締役若しくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）、
- (2) 運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）、
- (3) 通常取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等（委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下（4）（5）において同じ。）又は子法人等（委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。）と有価証券の売買その他の取引又は金融デリバティブ取引を行うこと。
- (4) 委託会社の親法人等又は子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額若しくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。
- (5) 上記（3）（4）に掲げるもののほか、委託会社の親法人等又は子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

5【その他】

- (1) 定款の変更
定款の変更に関しては、株主総会において株主の決議が必要です。
- (2) 訴訟事件その他の重要事項
本書提出日現在、委託会社および当ファンドに重要な影響を与えた事実、または与えると予想される事実はありません。また、訴訟はありません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

(1) 受託会社

名称：住友信託銀行株式会社

資本金の額：342,037百万円（平成22年9月末現在）

事業の内容：銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

<参考：再信託受託会社の概要>

名称：日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社

資本金の額：51,000百万円（平成22年9月末現在）

資本構成：株式会社りそな銀行33.33%、住友信託銀行株式会社33.33%、三井トラスト・ホールディングス株式会社33.33%

業務の内容：銀行法に基づき、銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

再信託の目的：原信託契約にかかる信託業務の一部（信託財産の管理）を原信託受託会社から再信託受託会社（日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社）へ委託するため、原信託財産の全てを再信託受託会社へ移管することを目的とします。

(2) 販売会社

| | 名称 | 資本金の額 (平成22年9月末現在) | 事業の内容 |
|---|------------|-----------------------|----------------------------------|
| 1 | 東海東京証券株式会社 | 6,000百万円 | 「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでおります。 |
| 2 | 浜銀TT証券株式会社 | 3,307百万円 | 「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでおります。 |
| 3 | ワイエム証券株式会社 | 1,270百万円 | 「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでおります。 |
| 4 | 宇都宮証券株式会社 | 301百万円 | 「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでおります。 |

| | | | |
|---|----------------|----------|----------------------------------|
| 5 | 西日本シティTT証券株式会社 | 1,575百万円 | 「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでおります。 |
|---|----------------|----------|----------------------------------|

(3) 投資顧問会社

名称：BNYメロンARXインベスティメントスLTDA

資本金の額：28,977百万米ドル（平成21年12月末現在）

同社はザ・バンク・オブ・ニューヨーク・メロン・コーポレーションの子会社であり、資本金の額を開示していないため、上記の資本金の額はザ・バンク・オブ・ニューヨーク・メロン・コーポレーションの資本金の額を記載しております。

事業の内容：有価証券等にかかる投資運用業務を営んでおります。

2【関係業務の概要】

- (1) 受託会社：ファンドの受託会社として信託財産の保管・管理・計算等を行っています。なお、当ファンドにかかる信託事務の処理の一部について日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社と再信託契約を締結し、これを委託することがあります。その場合には、再信託にかかる契約書類に基づいて所定の事務を行います。
- (2) 販売会社：ファンドの募集、販売の取扱いを行い、一部解約に関する事務、収益分配金・一部解約金・償還金の支払に関する事務等を行います。
- (3) 投資顧問会社：委託会社からの委託を受け、当ファンドの運用を指図します。

3【資本関係】

- (1) 受託会社：該当事項はありません。
- (2) 販売会社：該当事項はありません。
- (3) 投資顧問会社：該当事項はありません。

第3【その他】

- 1 目論見書の表紙等にロゴ・マーク、図案を採用し、ファンドの愛称、形態などを記載することがあります。また、以下の内容を記載することがあります。
 - (1) 金融商品取引法の規定に基づく目論見書である旨
 - (2) 目論見書の使用開始日
 - (3) 委託会社等の情報および受託会社に関する情報
 - (4) 請求目論見書の入手方法および当該請求を行った場合は、その旨を記録しておくべきである旨
 - (5) 信託約款が請求目論見書に掲載されている旨
 - (6) 商品内容に関して重大な変更を行う場合には、投資信託及び投資法人に関する法律に基づき、事前に受益者の意向を確認する手続きを行う旨
 - (7) 投資信託の財産は、信託法に基づき受託会社において分別管理されている旨
 - (8) 「ご購入に際しては、本書の内容を十分にお読みください。」との趣旨を示す記載
- 2 届出の効力に関する事項について、次に掲げるいずれかの内容を記載することがあります。
 - (1) 届出をした日および当該届出の効力の発生の有無を確認する方法
 - (2) 届出をした日、届出が効力を生じている旨および効力発生日
- 3 目論見書の別称として「投資信託説明書」という名称を使用する場合があります。
- 4 交付目論見書に金融商品取引法に規定するクーリングオフの適用がない旨を記載することがあります。
- 5 目論見書は電子媒体等として使用される他、インターネット等に掲載されることがあります。
- 6 交付目論見書に最新の運用実績を記載することがあります。
- 7 目論見書の巻末に「用語集」を掲載することがあります。

独立監査人の監査報告書

平成23年2月10日

B N Yメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 安藤 通 教
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている「B N Yメロン・ブラジル・インフラ・消費関連株式ファンド」の平成22年6月16日から平成22年12月15日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、「B N Yメロン・ブラジル・インフラ・消費関連株式ファンド」の平成22年12月15日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

B N Yメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、当社が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。

[委託会社の監査報告書（当期）へ](#)

独立監査人の監査報告書

平成22年6月4日

B N Yメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社
取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員 公認会計士 安藤 通 教
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているB N Yメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの第13期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書及び株主資本等変動計算書について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、B N Yメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社の平成22年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 上記は、当社が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

[委託会社の監査報告書（中間）へ](#)

独立監査人の中間監査報告書

平成22年12月24日

B N Yメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 安藤 通 教
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているB N Yメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの第14期事業年度の中間会計期間（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書及び中間株主資本等変動計算書について中間監査を行った。この中間財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国における中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。中間監査は分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続を適用して行われている。当監査法人は、中間監査の結果として中間財務諸表に対する意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、B N Yメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社の平成22年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間会計期間（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

（注）上記は、当社が、中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

[委託会社の監査報告書（当期）へ](#)

独立監査人の監査報告書

平成22年8月11日

B N Yメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 安藤 通 教
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている「B N Yメロン・ブラジル・インフラ・消費関連株式ファンド」の平成22年1月12日から平成22年6月15日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、「B N Yメロン・ブラジル・インフラ・消費関連株式ファンド」の平成22年6月15日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

B N Yメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、当社が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. 前計算期間の財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

[委託会社の監査報告書（前期）へ](#)

独立監査人の監査報告書

平成21年6月4日

B N Yメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社
取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員 公認会計士 安藤 通 教
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているB N Yメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの第12期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書及び株主資本等変動計算書について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、B N Yメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社の平成21年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 上記は、当社が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。